

モーターボート競走公益資金による
財団法人日本船舶振興会の補助事業

標準非木造住宅の再建築費等に関する調査研究

—主要都市における建築費に係る地域差指数—

昭和61年3月

財団法人 資産評価システム研究センター

は し が き

財団法人資産評価システム研究センターは、主として地域の資産に関する調査研究の実施を目的として、昭和53年5月発足しました。

当評価センターにおける調査研究は、資産評価の基礎理論及び地方公共団体における資産評価技法の両面にわたって、毎年度、学識経験者並びに自治省、地方公共団体等の関係者をもって構成する資産評価システム、土地、家屋及び償却資産の各部門ごとの研究委員会において行われ、その成果は、直接、会員である地方公共団体等に配付のうえ、その活用を期待するとともに、当評価センターの実施する研究会、資料・情報の発行等、会員に対する便益提供のための各種事業の基盤ともなってきたところであります。

ここに、昭和60年度における調査研究の成果をとりまとめ公表することになりましたが、この機会に、熱心にご研究、ご審議をいただいた研究委員各位並びに実地調査に当たって種々ご協力を賜った地方公共団体関係者各位に心から感謝申しあげる次第であります。

なお、当評価センターは、今後とも所期の目的にそって、事業内容の充実のためさらに努力を傾注する所存であります。地方公共団体をはじめ関係団体の皆様の一層のご指導、ご援助をお願い申しあげる次第であります。

最後に、この調査研究事業は、モーターボート競走公益資金による財団法人日本船舶振興会の補助金の交付を受けて実施したものであり、改めて深く感謝の意を表するものであります。

昭和61年3月

財団法人 資産評価システム研究センター
理事長 山下 稔

研 究 組 織

家屋研究委員会

(委員長)	松 下 清 夫	東京大学名誉教授
(委員)	加 藤 裕 久	小山工業高等専門学校助教授
	穴 道 恒 信	穴道建築設計事務所長
	西 沢 博	電気通信共済会建築部調査役
	上 杉 啓	東洋大学教授
	吉 田 倬 郎	工学院大学助教授
	黒 田 隆	㈱建設物価調査会技術顧問
	斎 藤 順 男	清水建設㈱設備部長
	関 根 繁 夫	東洋ビルサービス㈱業務部次長
	長 畑 明 芳	住宅金融公庫建設指導部次長
	志 村 哲 也	自治省府県税課長
	佐 野 徹 治	自治省固定資産税課長
	須 永 清	自治省固定資産税課固定資産鑑定官
	吉 田 隆 一	㈱資産評価システム研究センター調査研究部長
(専門員)	中 村 秀 文	自治省固定資産税課家屋第1係長兼第2係長
	市 瀬 惟 義	㈱資産評価システム研究センター主任研究員

目 次

I	調査研究の目的等	1
1	目 的	1
2	調査方法	1
(1)	意 義	1
(2)	調査対象家屋	2
(3)	調査項目	2
(4)	調査の方法	2
3	調査結果の集計	2
(1)	とりまとめ方	2
(2)	凡 例	2
II	調査結果の概要	5
1	調査対象家屋の概況	5
2	共同住宅（RC造）に係る建築価額等の調査	6
(1)	建築価額等の状況	6
(2)	建築価額等の地域差	8
(3)	建築価額及び修正建築価額の段階区分別構成比	15
(4)	評点水準の状況	17
3	部分別の施工状況等の調査	18
(1)	再建築費評点数の部分別構成比	18
4	主要資材に係る価格の状況調査	22
5	施工会社及び販売形態の状況調査	24
III	計数資料等	26
(1)	別表1 共同住宅（RC造）に係る建築価額等の状況	26
(2)	別表2 共同住宅（RC造）に係る部分別構成比の状況	27
(3)	別表3 共同住宅（RC造）に係る部分別評点数の状況	28
	附表1 主体構造部及び基礎に係る施工量等の状況	30
	附表2 建築設備に係る部分別評点数と設備内容	31
(4)	別表4 共同住宅（RC造）に係る施工会社及び販売形態の状況	35

(5) 別表 5 主要資材価格の都市別状況	36
(6) 別図 1 共同住宅（RC造）に係る建築価額等の都市別比較	37
(7) 調査対象都市別の部分別仕上げ資材等一覧	38
Ⅳ 参考資料	65
(1) 主要建築資材の卸売物価指数	65
(2) 都道府県別共同住宅（RC造）建物の工事予定単価	66

I 調査研究の目的等

1 目的

家屋の価額を求める手法として再建築価額を基準とする評価方法が定着している。再建築価額は、家屋の価額の構成要素として基本的なものであり、その評価の方式化も比較的容易であるため、地方税（不動産取得税及び固定資産税）における家屋の評価においてもこの方法が採用されている。

当センターでは、専ら地方公共団体における評価実務の参考に供するため、昭和53年度から昭和59年度までの7カ年間木造の専用住宅普通建の家屋を対象として、全国主要都市における建築費の実態、建築費と再建築価額を基準とした評価額との相関関係等について調査研究を行ってきたところである。

このような7カ年間の調査で、木造の専用住宅普通建に係る調査研究は、その所期の目的が達成されたので、昭和60年度からは、非木造の共同住宅（鉄筋コンクリート造）（以下、「共同住宅（RC造）」という。）について、同様の調査研究を行うこととしたものである。

”なお、この調査研究の主な目的は、次のとおりである。

- ① 全国主要都市における標準的な共同住宅（RC造）の建築価額を把握すること。
- ② 標準的な共同住宅（RC造）に係る建築価額について、全国主要都市間の地域差の状況を把握すること。
- ③ 全国主要都市における標準的な共同住宅（RC造）の構造、様式、形状、規模、使用資材及びその施工の状況を把握するとともに、建築費の主要構成部分別割合及びその地域差を明らかにすること。

2 調査方法

(1) 意義

この調査は、原則として昭和59年中に建築された共同住宅（RC造）で、その様式、規模及び形状が中庸である家屋を母集団とし、各調査対象都市からその標本となる家屋を各1棟抽出し、調査、分析することにより、当該母集団における地域差等を統計的に推定しようとするものである。また、抽出家屋が各都道府県ごとに各1棟と極めて少数であるが、各都道府県下の調査対象都市の固定資産（家屋）評価担当職員に依頼して各都市に建築された同程度の家屋について調査しているので、建築価額等について

ほぼ正確な状況を把握することができたものとする。

なお、本年度においては、各調査対象都市における標準的な家屋に係る一般的な施工状況及び使用資材等を標本調査ではなく、担当職員に対するアンケート調査方式で行った。

(2) 調査対象家屋

- ① 用途・構造 鉄筋コンクリート造共同住宅（昭和59年中に新築されたもので、パネル式工法以外のもの）
- ② 選定棟数 原則として都道府県庁所在都市ごとに1棟（総数47棟）
- ③ 程度・規模 3～5階建（地階のないものに限る。）で住戸数が30戸程度以上のもの。ただし、その様式、規模及び形状が中庸なもの。

(3) 調査項目

ア 調査対象家屋に係るもの

- ① 建築価額
- ② 構造、様式、形状及び使用資材別施工量
- ③ 再建築費評点数の算出根拠（部分別内訳）
- ④ 施工会社及び販売形態

イ その他

その他建築費に関する必要事項

(4) 調査の方法

- ① 調査対象家屋の所在する都市の固定資産評価担当職員によるアンケート調査（42棟）
- ② 上記の調査に基づく、当センター家屋研究委員会委員による実地調査（本年度対象都市 鶴岡市、金沢市、大津市、神戸市、長崎市）

3 調査結果の集計

(1) とりまとめ方

この研究成果は、調査対象都市の固定資産評価担当職員によるアンケート調査に基づいて、当センターの家屋研究委員会の委員が、適宜、実地調査を行い、更に、報告された各データについて精査、調整の上、整理集計するとともに若干の分析を加えて取りまとめたものである。

(2) 凡 例

収録事項の主な用語の定義等は次のとおりである。

○ 建築価額 所有者が建築業者に支払った建築費（諸経費を含む。）で家屋評価の対象部分に相当する延べ床面積 1 m²当たりの価額

○ 修正建築価額 「建築価額」については、標本家屋の品等及び施工の程度が各調査対象都市間において一定していないためその程度差が価額面に表われるという要因が含まれているが、各標本家屋についてその要因を取り除き、東京都（特別区）を基準にして求めた延べ床面積 1 m²当たりの理論建築価額

具体的には、各調査対象都市の標本家屋の再建築費評点数の差は標本家屋の品等及び施工の程度差がその原因と考えられるので、各家屋について、東京都（特別区）の家屋の再建築費評点数を基準（100）とした場合の各家屋の指数を求め、この指数をもって当該家屋の「建築価額」を東京都（特別区）の基準へ修正することにより求めた。

○ 再建築費評点数 延べ床面積 1 m²当たりの再建築費評点数

○ 再建築価額 「再建築費評点数」に固定資産評価基準に定める再建築費評点補正率及び評点 1 点当たり価額を乗じた延べ床面積 1 m²当たりの評点額

○ 平均 注記していない限り算術平均とした。

○ 標準偏差 標準偏差 (s) =
$$\sqrt{\frac{\sum_{i=1}^n (x_i - \bar{x})^2}{n}}$$

○ データの範囲 データの範囲 (R) = 最大値 (最高) - 最小値 (最低)

- 評価水準
$$\text{評価水準}(\%) = \frac{\text{「再建築価額」}}{\text{「建築価額」}} \times 100$$
- 評点水準
$$\text{評点水準}(\%) = \frac{\text{「再建築費評点数」}}{\text{「建築価額」}} \times 100$$
- 北海道地域 札幌市
- 東北地域 青森市、盛岡市、仙台市、秋田市、鶴岡市及び福島市
- 南関東地域 水戸市、宇都宮市及び前橋市
- 北関東地域 浦和市、千葉市、東京都（特別区）及び横浜市
- 北陸地域 新潟市、富山市、金沢市及び福井市
- 中部地域 甲府市、長野市及び岐阜市
- 中京地域 静岡市、名古屋市及び津市
- 北近畿地域 大津市、京都市及び奈良市
- 南近畿地域 大阪市、神戸市及び和歌山市
- 山陰地域 鳥取市及び松江市
- 山陽地域 岡山市、広島市及び山口市
- 四国地域 徳島市、高松市、松山市及び高知市
- 北九州地域 福岡市、佐賀市及び長崎市
- 南九州地域 熊本市、大分市、宮崎市、鹿児島市及び那覇市

Ⅱ 調査結果の概要

1 調査対象家屋の概況

昭和60年度の調査において、各都市から調査対象家屋として選定された家屋の階数、住戸数、延べ床面積等は表1のとおりである。階数は3～5階建を指定したが、調査対象都市に該当する家屋がないため、6階建のものが4棟、7階建のものが1棟あった。また、住戸数についても30戸程度のものを予定していたところ、同様な理由により、30戸未満のものが25棟、40戸以上のものが7棟あった。1戸当たり延べ床面積については特に指定しなかったが、図3で示されているように、かなり小さいものがあり、偏差が目立った。

表1 調査対象家屋の状況

区 分	最 高	最 低	平 均	標準偏差
階 数 (階)	7	3	4	0.8
住 戸 数 (戸)	59	12	28	9.7
延べ床面積 (㎡)	2,986	762	1,742	650.0
1戸当たり延べ床面積 (㎡/戸)	89	23	63	13.0

- 注1. 延べ床面積、1戸当たり延べ床面積は、小数点以下四捨五入
2. 延べ床面積は、建物内の階段等の共有部分に係る床面積を含む。

なお、調査対象家屋における階数、戸数及び1㎡当たり延べ床面積の段階区分別の状況を示したのが、図1、2及び3である。

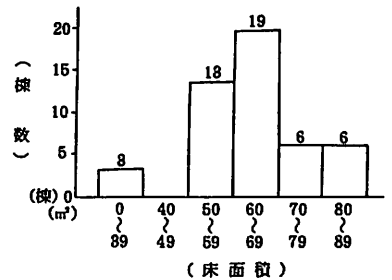
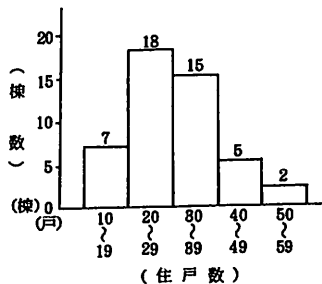
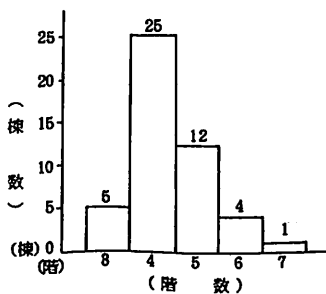


図1 階数の段階別状況

図2 住戸数の段階別状況

図3 1住戸当たり延べ床面積の段階別状況

なお、図3における1住戸当たり延べ床面積39㎡以下の家屋は、その間取りが、いわゆる1K、2Kまたは1DKに係るものであった。

2 共同住宅（RC造）に係る建築価額等の調査

(1) 建築価額等の状況

建築価額等の状況は、表2及び表3のとおりである。

表2 建築価額等の平均値

建築価額 (A)	価額	129,698
	指数	80
再建築費 評点数(B)	評点数	84.137
	指数	86
修正建築 価額(C)	価額	150,812
	指数	93
再建築価 額(D)	価額	99,029
	指数	86
評価水準 $\frac{(D)}{(A)}$ (%)		76

(単位1㎡当たり円・点)
(東京都(特別区)=100)

- 注1. 建築価額等は、各都市の数値の平均である。
- 注2. 再建築費評点数は、昭和60年基準によって算出したものであり、再建築費評点補正率を乗じる前のものである。

調査対象都市における平均値及び東京都(特別区)を100とした場合の指数は、建築価額においては129,698円、指数80、再建築費評点数では84.137点、指数86、再建築価額では89,125円、指数86となっている。

建築価額及び修正建築価額の指数は、いずれも80～90弱であり、東京都(特別区)以外の地域では、調査対象家屋の個別特殊事情を考慮しても、建築価額が安価であることがわかる。

また、再建築価額の建築価額に対する割合、いわゆる評価水準では76%となっている。

なお、建築価額について分析すると、表3のとおりである。

表 3 建築価額等の状況

(単位：千円/㎡)

区 分	最 高	最 低	平 均	標準偏差
建 築 価 額	168 (青森市)	92 (札幌市)	129	25.2
建 築 部 分 価 額	144 (青森市)	71 (札幌市)	102	16.1
建 築 設 備 部 分 価 額	63 (鳥取市)	11 (鹿児島市)	27	9.7

注 1. 「建築部分価額」とは、各部分別のうち、建築設備を除く全ての部分別に係る建築価額をいう。

2. 「建築設備部分価額」とは、建築設備のみに係る建築価額をいう。

建築価額の平均は129千円、最高値は168千円(青森市)、最低値は92千円(札幌市)、標準偏差は25.2千円、標準偏差の平均に対する割合は19.5%、データの範囲76千円となっている。建築部分価額では平均102千円、最高値144千円(青森市)、最低値71千円(札幌市)、標準偏差16.1千円、標準偏差の平均に対する割合15.8%、データの範囲73千円となっている。また、建築設備部分価額では平均27千円、最高値63千円(鳥取市)、最低値11千円(鹿児島市)、標準偏差9.7千円、標準偏差の平均に対する割合は35.9%、データの範囲は52千円となっている。

これらのデータから、建築設備部分価額にあっては調査対象家屋の個体差が極めて大きいこと、建築設備部分価額の偏差の大きさが建築価額の偏差に強く影響していることがわかる。

なお、調査対象家屋の建築価額、建築部分価額及び建築設備部分価額の段階区分別の状況を示すと図4、5及び6のとおりである。

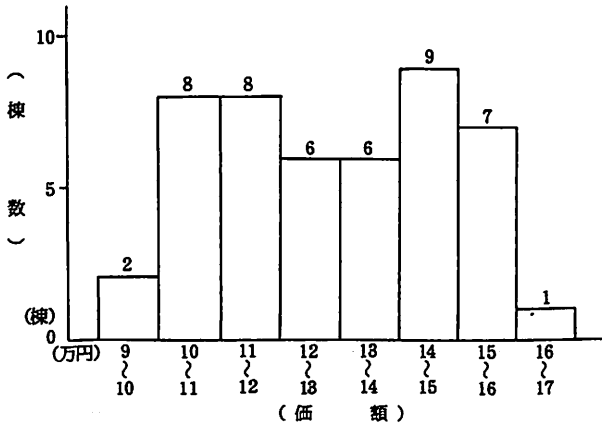


図4 建築価額の段階区別状況

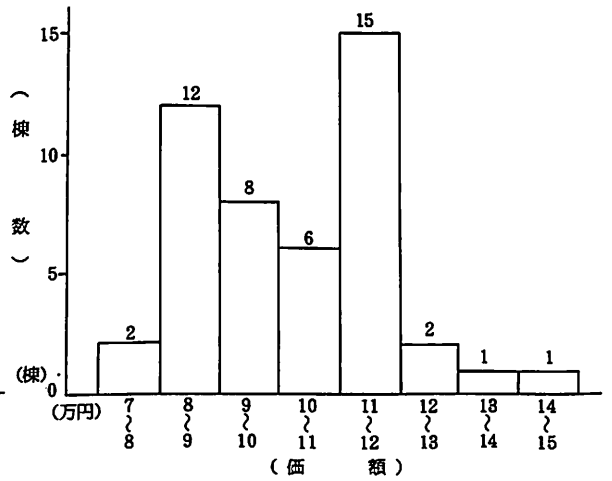


図5 建築部分価額の段階区別状況

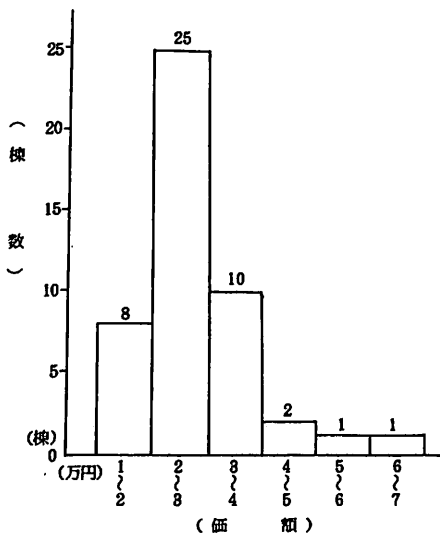


図6 建築設備部分価額の段階区別状況

(2) 建築価額等の地域差

ア 概要

建築価額、再建築費評点数及び修正建築価額について、東京都（特別区）を100とした指数で、データの偏差をマクロ的にみたのが表4である。

表 4 建築価額等の地域差（指数）

区 分	全国平均指数	最 高	最 低	標準偏差
建築価額	80	103 (青森市)	57 (札幌市)	12.4
再建築費 評点数	86	116 (盛岡市)	72 (松江市)	8.5
修正建築 価 額	93	123 (山口市)	62 (札幌市)	14.9

調査対象家屋の品等、施工の程度差、地域的物価差、個別的特殊事情等の要素が含まれる建築価額についてみると、平均80、最高値103（青森市）、最低値57（札幌市）、標準偏差12.4、標準偏差の平均に対する割合15.5%、データの範囲46となっている。

また、その数値の差が、調査対象家屋の品等及び施工の程度差によるものと考えられる再建築費評点数の数値をみると、平均86、最高値116（盛岡市）、最低値72（松江市）、標準偏差8.5、標準偏差の平均に対する割合5.7%、データの範囲44となっている。

再建築費評点数には建築価額よりも偏差の要因が少ないことから当然ではあるが、本調査においても、建築価額よりも再建築費評点数において偏差が小さいことを確認できる。この再建築費評点数の偏差及びデータの範囲は、そのまま各調査対象都市の「標準的な家屋」の品等及び施工の程度の地域差を表わす指標として考えることができる。

次に、建築価額から調査対象家屋の品等及び施工の程度差による価額の変動要因を理論的に取り除いた修正建築価額をみると、平均93、最高値123（山口市）、最低値62（札幌市）、標準偏差14.9、標準偏差の平均に対する割合16.0%、データの範囲61となっている。原則的には、建築価額の変動要因を理論的に取り除くことから、建築価額よりも数値の偏差及びデータの範囲は小さくなるはずであるが、本年度の調査では修正建築価額の偏差及びデータの範囲が建築価額のそれを上回る結果となった。その原因としては、修正建築価額に含まれている調査対象家屋の個別的特殊事情の要素がかなり大きかったこと、修正建築価額を算出する場合、東京都（特別区）の再建築費評点数を100とした指

数を基にしているため、東京都（特別区）の調査対象家屋の再建築費評点数の高低が、修正建築価額に影響していること、地域的物価差が影響していること等が考えられる。

1 地域差

① 建築価額

建築価額の地域差についてみると、平均は129,698円、標準偏差は20,182円を示し、標準偏差（ $\bar{x} - s$ < 区間 < $\bar{x} + s$ をいい、 \bar{x} は平均、 S は標準偏差を意味する。以下同じ。）にあるデータ数は、47個中29個と全体の61.7%を占め、標準偏差の平均に対する割合は15.6%となっている。

また、データの範囲をみると、最高値168,137円（青森市）、最低値92,124円（札幌市）、データの範囲75,963円を示している。

その状況を具体的に示したのが図7である。

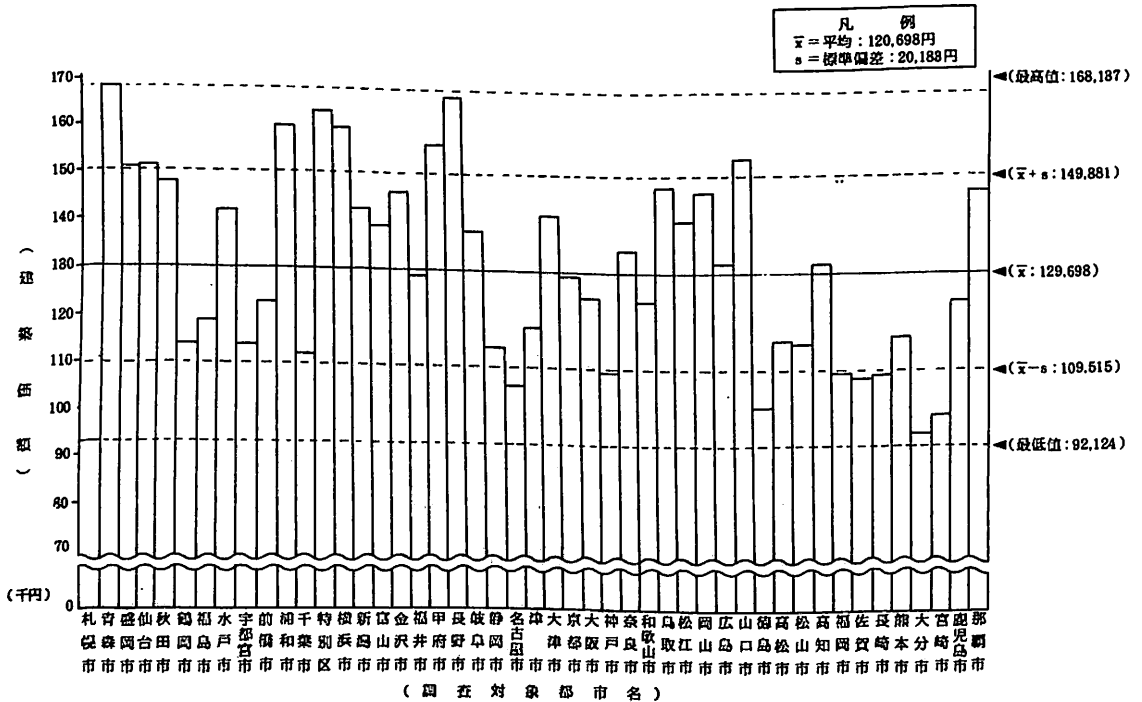


図7 建築価額の偏差状況

平均（129.698円）以上の建築価額の高い都市は、青森市、長野市、東京都（特別区）、浦和市、横浜市、甲府市、山口市、仙台市、盛岡市、秋田市、鳥取市、岡山市、金沢市、那覇市、新潟市、水戸市、松江市、富山市、岐阜市、奈良市、広島市、高知市の順となっている。

平均以下の建築価額の低い都市は札幌市、大分市、宮崎市、徳島市、名古屋市、佐賀市、長崎市、福岡市、神戸市、千葉市、宇都宮市、鶴岡市、静岡市、松山市、高松市、津市、熊本市、福島市、鹿児島市、前橋市、和歌山市、大阪市、京都市、福井市の順で低くなっている。

これらの各調査対象都市のデータを便宜的に、各都市が所在する都道府県に置き直して、図示したものが図8である。

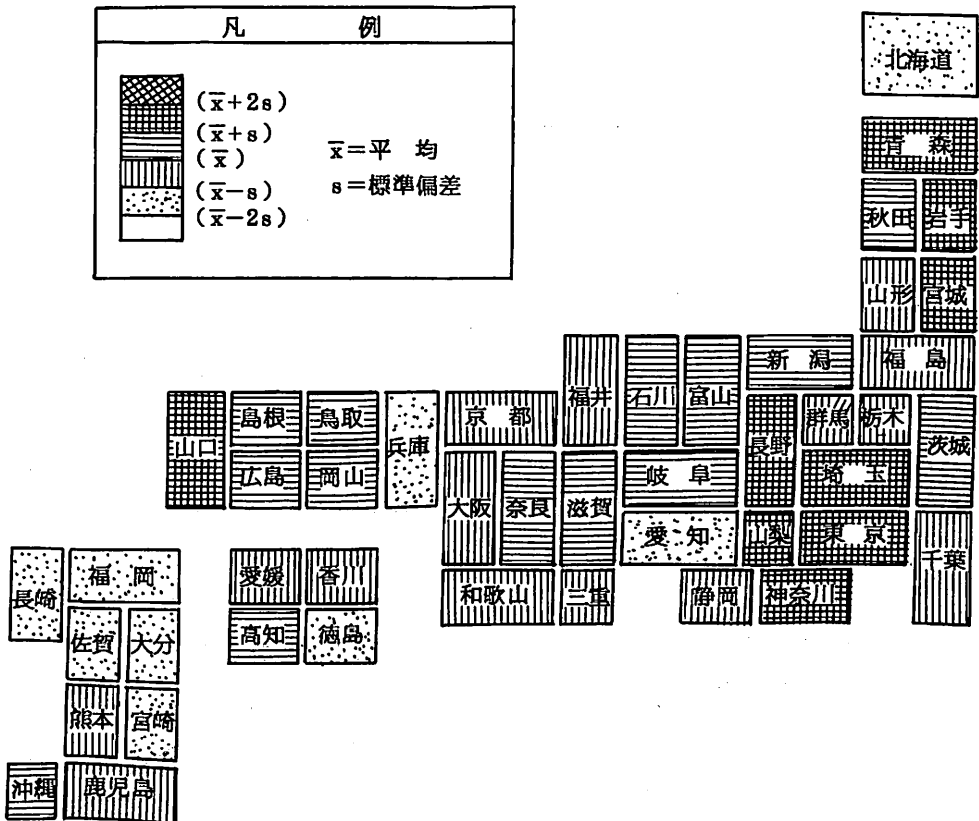


図8 建築価額の地域別偏差状況

図8では、青森県、岩手県、宮城県、埼玉県、東京都、神奈川県、長野県、山梨県及び山口県が高く、北海道、愛知県、兵庫県、徳島県、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県及び宮崎県が低くなっている。

建築価額の地域差をみるために、便宜的に全国を14地域に区分し、東京都(特別区)を100とした指数で、昭和60年度の調査対象家屋の建築価額の地域差を示したものが表5である。

表5 建築価額の地域差(指数)

(特別区=100)

北海道	東北	北関東	南関東	北陸	中部	中京	北近畿	南近畿	山陰	山陽	四国	北九州	南九州
57	87	77	91	85	94	69	88	73	88	89	71	66	71

表5から、中部、南関東、山陽、山陰及び東北の各地域の建築価額が高く、反面、北海道及び北九州が際立って低いことがわかる。

② 再建築費評点数

再建築費評点数の平均は84.137点、標準偏差は8.372点、標準偏差内の中にあるデータは47個中32個で全体の68.1%を占めており、標準偏差の平均に対する割合は10.0%を示している(別表1参照)。この数値は、建築価額よりもかなり偏差が小さいことを示している。これは、「ア 概要」で分析したように、再建築費評点数が建築価額よりも偏差の要因が少ないためと考えられるが、平均値のプラス・マイナス10%の比較的狭い範囲に全体のデータの約70%が集中していることは、日本が南北に長い列島のため気象条件等の違いがあり、各地域での使用資材や施工量に違いがあること、あるいは各調査対象家屋の一住戸に係る床面積及び間取り等を特に示さなかったこと等を考慮すれば、今回の調査における各都市間の「標準的な家屋」の品等及び施工の程度の地域差が比較的小さく、ある意味では、均一化されていると推測される。

しかし、昭和60年度調査のデータでは、最高値113.295点(盛岡市)、最低値70.303点(松江市)、データの範囲42.956点を示

しており、単純にみた各データ間の格差は意外に大きくなっている。
 以上のことを図示したものが図9である。

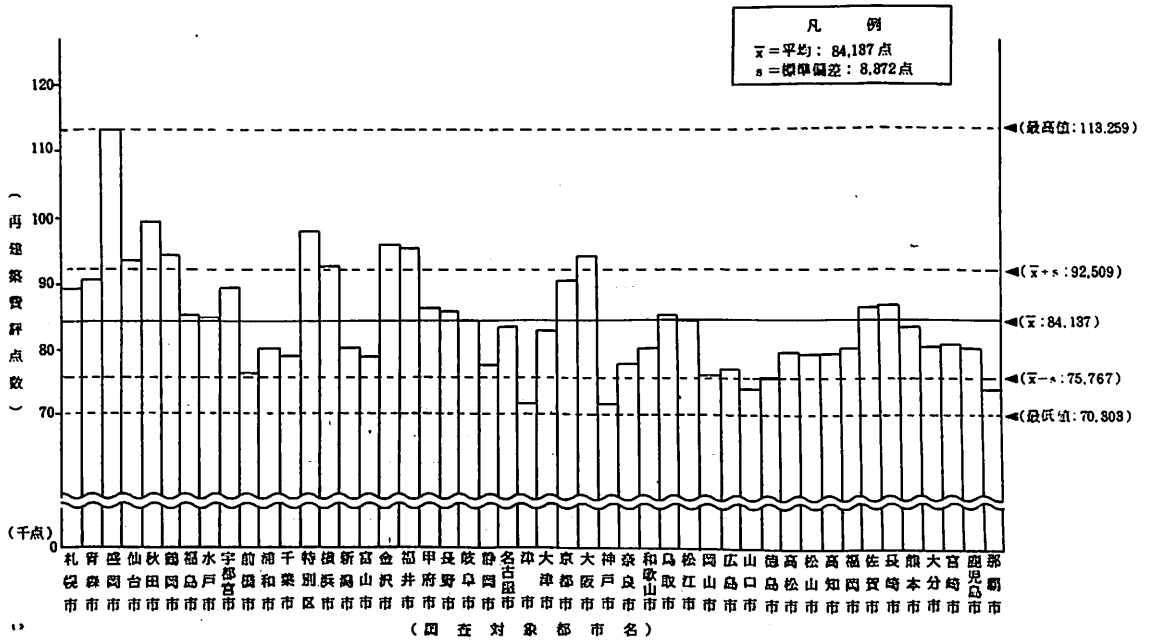


図9 再建築費評点数の偏差状況

図9から明らかなように、盛岡市(113,259点)だけが際立って偏差の大きい数値を示しており、このことが、平均や標準偏差から推測される偏差の状況に比べ、データの範囲が広がっていることの大きな原因であることがわかる。

次に、便宜的に各調査対象都市のデータを各都市所在の都道府県に置き直してみると図10のとおりである。

岩手県、宮城県、秋田県、山形県、東京都、神奈川県、石川県、福井県及び大阪府が高く、三重県、兵庫県、山口県、徳島県、沖縄県が低くなっている。

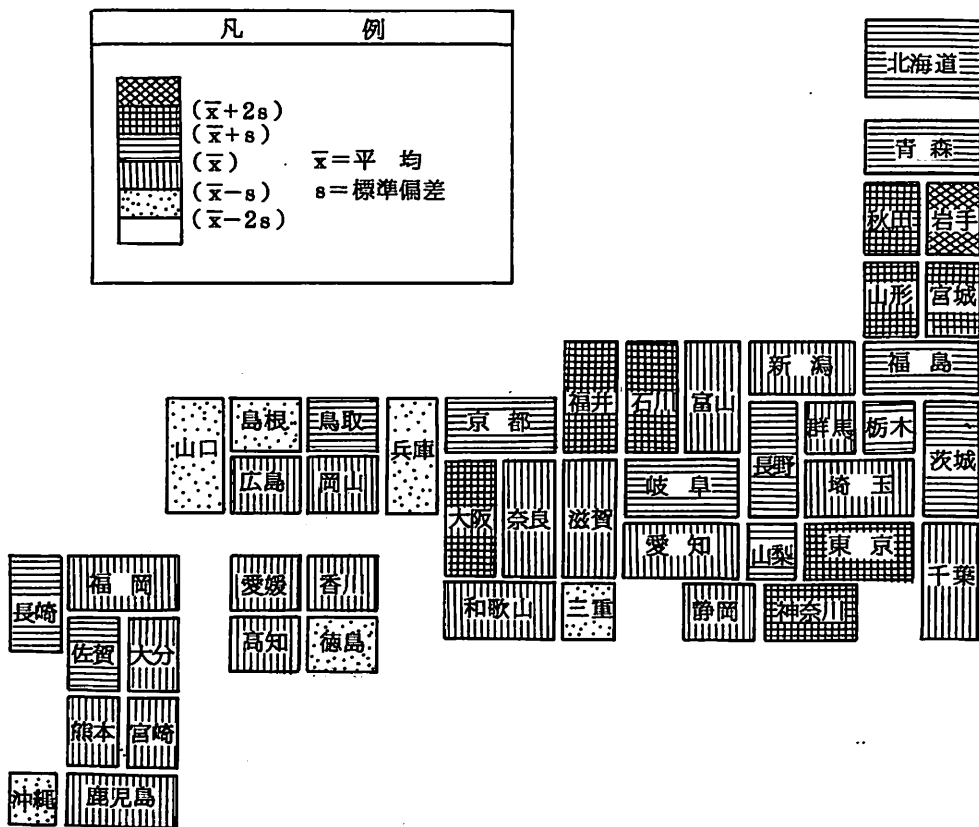


図 1 0 再建築費評点数の地域別偏差状況

その状況を全国の 14 地域に区分し、東京都（特別区）を 100 とした指数でみたのが表 6 である。

表 6 再建築費評点数の地域差（指数）

（特別区=100）

北海道	東北	北関東	南関東	北陸	中部	中京	北近畿	南近畿	山陰	山陽	四国	北九州	南九州
91	98	86	89	89	87	80	86	84	79	77	80	86	81

各地域の指数は、分析地域を少くしていることから図10で分析した都道府県別の結果と若干の違いはあるものの、再建築費評点数が高い地域としては北海道、東北、南関東、北陸及び中部があげられ、低い地域としては中京、山陰、山陽、四国及び南九州があげられ、概ね同様の傾向を示している。

以上にみられる再建築費評点数の地域差は、主に部分別の使用資材や施工量の相違及び再建築費評点数に占める建築設備部分の再建築費評点数の割合等に起因していると考えられる。

(3) 建築価額及び修正建築価額の段階区分別構成比

建築価額及び修正建築価額の偏差等については、既に考察してきたところである。ここでは、それぞれどの程度の価額レベルにあるのかをみることにする。

建築価額と修正建築価額の段階区分別構成比を示すと表7及び表8のとおりである。

表7 建築価額の段階別区分

(単位：円、個、%)

区分	建 築 価 額											
	90,000 ~ 99,999	100,000 ~ 109,999	110,000 ~ 119,999	120,000 ~ 129,999	130,000 ~ 139,999	140,000 ~ 149,999	150,000 ~ 159,999	160,000 ~ 169,999	170,000 ~ 179,999	180,000 ~ 189,999	190,000 ~ 199,999	200,000 ~ 209,999
個 数	3	5	9	6	5	9	6	3	—	—	—	—
(構成比)	(6)	(18)	(19)	(13)	(11)	(19)	(18)	(6)	(—)	(—)	(—)	(—)

- 注 1. 太枠は最頻区分
2. 斜線部分は、標準偏差区間を含む区分

表8 修正建築価額の段階別区分

(単位：円、個、%)

区分	修 正 建 築 価 額											
	90,000 ~ 99,999	100,000 ~ 109,999	110,000 ~ 119,999	120,000 ~ 129,999	130,000 ~ 139,999	140,000 ~ 149,999	150,000 ~ 159,999	160,000 ~ 169,999	170,000 ~ 179,999	180,000 ~ 189,999	190,000 ~ 199,999	200,000 ~ 209,999
個 数	—	1	2	7	6	5	6	7	4	3	3	1
(構成比)	(—)	(2)	(4)	(15)	(17)	(11)	(14)	(15)	(9)	(6)	(6)	(2)

- 注 1. 太枠は最頻区分
2. 斜線部分は、標準偏差区間を含む区分

まず、建築価額であるが表7から、最も集中している区分をみると、110,000円以上119,999円以下及び140,000円以上149,999円以下の二つの段階が最頻区分となっている（太枠部分参照）。

次に、表8により修正建築価額についてみると、最も集中している区分は130,000円以上139,999円以下となっており、建築価額の場合と異なり、一区分のみとなっている。これは、修正建築価額は、建築価額から調査対象家屋の品等及び施工の程度差による価額の変動要因が理論的に取り除かれているためと考えられる。

次に、建築価額と修正建築価額の段階別の状況を図示すれば、図11のとおりである。

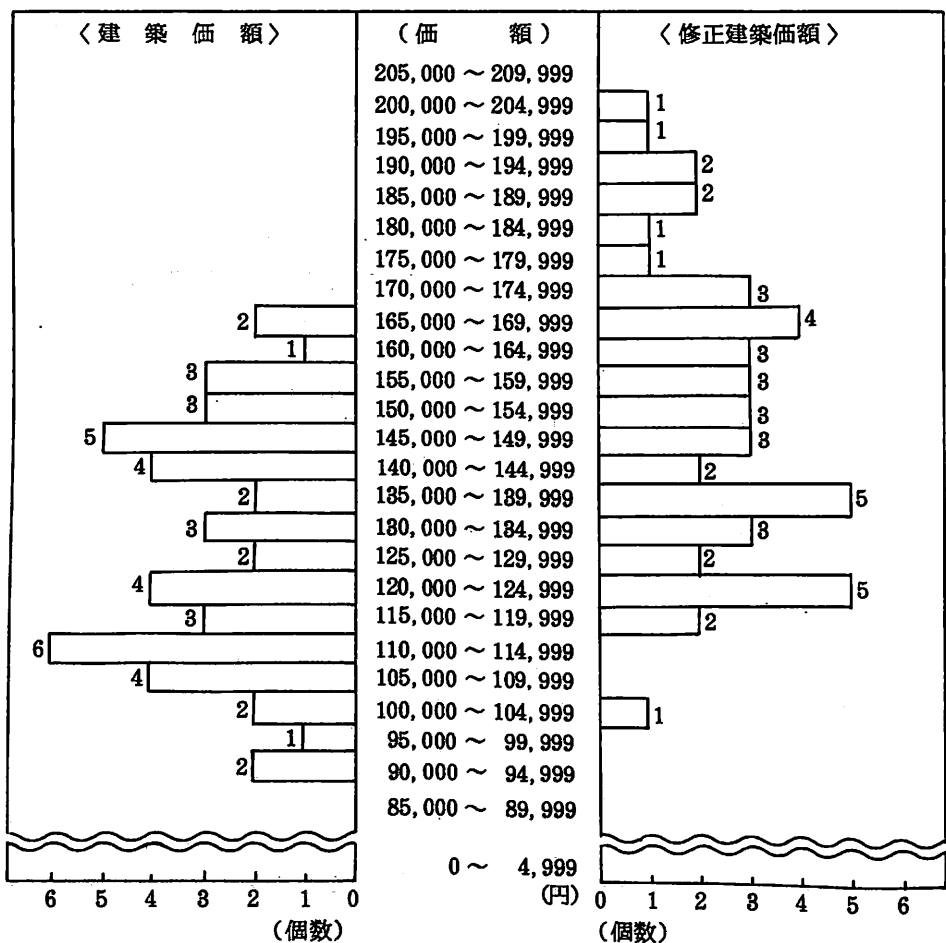


図11 建築価額等の段階区分別状況

図 11 によれば、昭和 60 年度調査の建築価額と修正建築価額の度数分布の状況は、建築価額の方が修正建築価額よりも集中化していることがわかる。これは、修正建築価額が建築価額に内在する変動要因（調査対象家屋の品等及び施工の程度差）を修正しているにもかかわらず、本年度の調査においては、その対象家屋の個別特殊事情がかなり大きかったことに起因すると考えられる。

(4) 評点水準の状況

今回の調査における各都市の評点水準についてみると図 12 のとおりである。

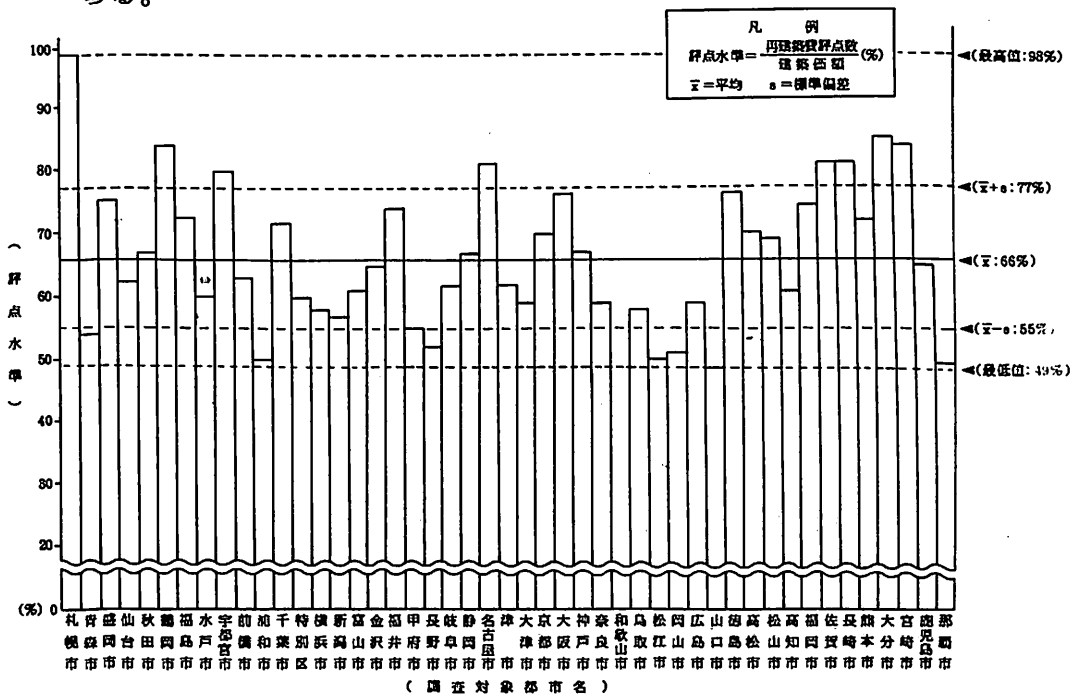


図 12 建築価額に対する評点水準の都市別比較

評点水準の平均は 66%、最高値は 98%（札幌市）、最低値は 49%（山口市）、標準偏差は 11%、標準偏差の平均に対する割合は 17%であり、データの範囲は 49%となっており、図 12 から明らかなように、かなりの偏差がみられる。

建築価額及び再建築費評点数には、前述のとおり程度の差はあるものの、それぞれの偏差要因が内在していることから、当該データからミクロ的に

地域差をみる意義は乏しいが、マクロ的にみて、再建築費評点数は建築価額の約6～7割程度の水準となっている。

次に、建築価額と再建築費評点数の相関関係についてみると、図13のとおりである。

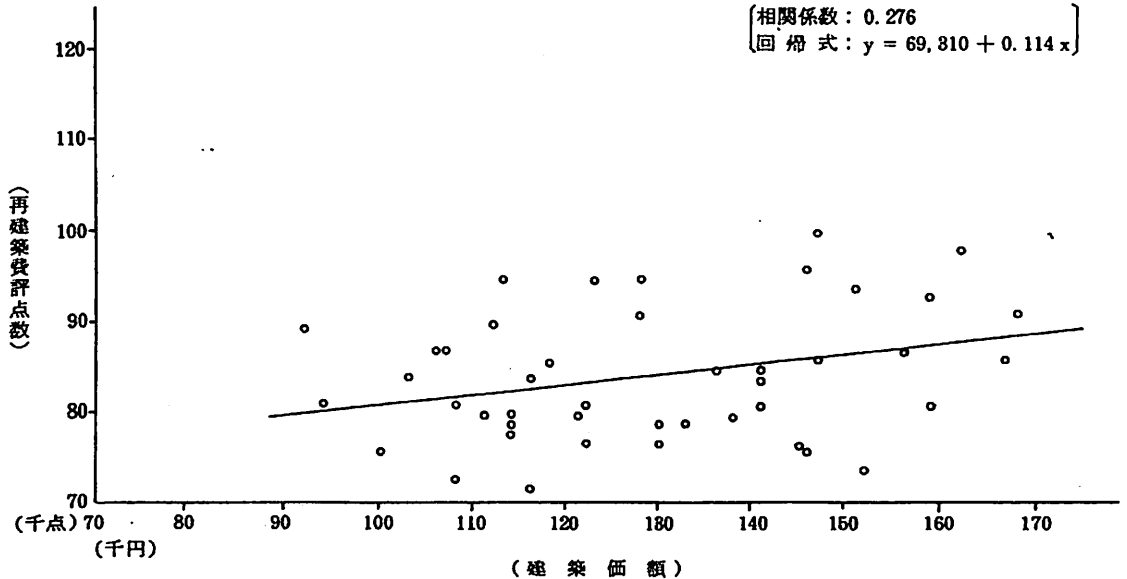


図13 建築価額と再建築費評点数の散布図

昭和60年度の調査では相関係数は0.276であり、本年度においては、建築価額と再建築費評点数の相関関係は正の相関にあるものの、比較的弱かったといえる。すなわち、回帰式が、極めてX軸と平行に近い直線となっている。

これは、評点水準が必ずしも高くないこと及び建築価額の上昇割合と再建築費評点数の上昇割合に相違があることを示していると考えられる。

3 部分別の施工状況等の調査

(1) 再建築費評点数の部分別構成費

昭和60年度の調査対象家屋について、固定資産評価基準に定める各部分別の再建築費評点数の構成状況をみると表9のとおりである。

表9 再建築費評点数の部分別構成比

(単位：%)

区 分	主体構造部	基礎	間仕切骨組	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具	仮設工事	その他の工事	建築設備
最 高	42	16	5	10	13	8	6	2	14	5	6	27
最 低	26	1	1	1	3	3	2	1	7	2	2	11
平 均	33	6	2	4	9	6	3	1	10	4	2	20
標準偏差	3.8	3.4	1.0	2.1	1.9	1.0	0.8	0.5	1.8	0.6	0.9	3.7

注) 外周壁骨組及び特殊設備に係る評点付設がなされている調査対象家屋が少数あったが、部分別構成比が無視しえるものだったので取り上げていない。

平均で見ると、ウェイトの高い構成部分は、主体構造部、建築設備、建具及び内部仕上げである。

これを、各部分別の標準偏差で見ると、各部分にかなりの偏差がある。

また、各部分を標準偏差の平均に対する割合で見ると、基礎が57%、外部仕上げ53%、間仕切骨組及び屋根仕上げが50%、その他の工事45%、天井仕上げ27%、内部仕上げ21%、床仕上げ、建築設備、建具及び屋根仕上げ15～19%であり、最も少ない数値を示しているものが主体構造部である。これは、調査対象家屋の個別特殊要因を考慮しなければならないが、地域的に使用資材が異なることもその原因と考えられる。

次に、再建築費評点数の部分別構成比の地域的特色をみるために、便宜的に全国を14地域に分けて、昭和60年度の調査における構成比をみると、図14のとおりである。

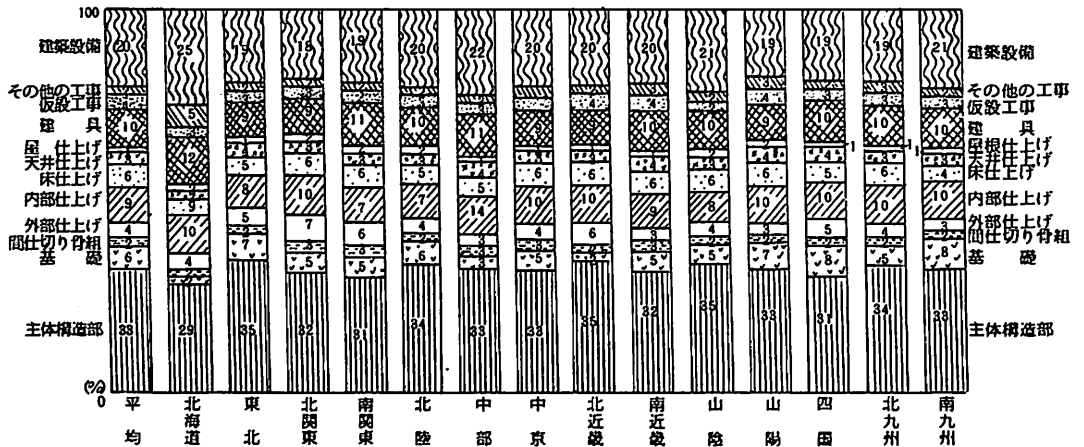


図14 再建築費評点数の地域別の部分別構成比

図14から主な構成部分(主体構造部、基礎、建築設備及び本年度の調査ではいわゆる外回りに係る部分)の特徴をみると次のとおりである。

① 主体構造部

主体構造部は、平均でみると、最も高いウェイトを占める部分であり、全地域において最大ウェイトを占める部分となっている。各地域での構成比は比較的近似した数値となっているが、今回の調査では、やや北海道が低くなっている。

② 基礎

基礎は、平均でみると、床仕上げとともに上から5番目のウェイトを占めている。地域別にみると、四国及び南九州が高く、北海道、北近畿が低い。これは、調査対象家屋に係る工法の違いによるところが大きいと考えられる。

③ 外部仕上げ

外部仕上げは、平均及び地域別でも大きなウェイトを占めていない。地域により少しずつウェイトが違っているが、これは使用資材の相

違に起因すると考えられる。

④ 屋根仕上げ

屋根仕上げは、平均で見ると、最もウェイトの低い部分である。各地域別にみても最もウェイトが低い。これは全国的に使用資材及び施工量が均質化しているためと考えられる。

⑤ 建 具

建具は、平均で見ると、上から3番目の高いウェイトを占めている。建具においては、標準偏差が少ないことから、地域別の差はあまりないが、北海道が若干高くなっている。

⑥ 建築設備

建築設備は、平均でも各地域でも、主体構造部に次ぐ高いウェイトを占めている。北海道及び中部が比較的高く、山陽及び南関東が低くなっている。

建築設備は、調査対象家屋の個別的事情、すなわち、設備の有無あるいは同一設備における程度の差により、その部分別再建築費評点数に大きな偏差がみられた。(表10参照)

表 1 0 建築設備に係る再建築費評点数の状況

データ数(個)		建築設備	電気設備	衛生設備	空調設備	防災設備	運搬設備
		47	47	47	41	24	11
再建築費評点数(点)	平均	16,427	4,218	10,570	808	751	2,374
	最高	22,742 (札幌市)	6,500 (鶴岡市)	15,994 (高知市)	8,866 (特別区)	1,629 (佐賀市)	3,071 (静岡市)
	最低	9,358 (山口市)	2,899 (宮崎市)	4,776 (津市)	160 (静岡市)	98 (浦和市)	1,751 (岡山市)
	標準偏差	3,592	915	3,258	1,478	414	408
	標準偏差/平均(%)	15.8	21.7	30.8	184.0	55.1	17.0
	データの範囲	13,389	3,601	7,312	8,706	347	1,971

(備考) 表に掲げた5設備では、衛生設備の比率が最も高く56%、次いで電気設備の23%であった。

4 主要資材に係る価格の状況調査

昭和60年度調査では、調査対象都市における生コンクリート（呼び強度210・スラブ18～21cm）1㎡当たり価格及び鉄筋（鉄筋コンクリート用異形棒鋼（JIS規格SD30）・径19～25mm）1t当たり価格について調査したので、その状況について説明する。

ア 生コンクリート

生コンクリートについては、呼び強度210のものでスラブが18、19、20、21cmの4種のものについて調査した。その結果、47の調査対象都市中18cmから21cmのものに価格差があった団体は仙台市、鶴岡市、松江市、岡山市、高松市、松山市及び鹿児島市の7市であり、ほとんどの市で価格差はみられなかった。また、18cmから20cmのものには価格差がないが、21cmのものとは価格差があった都市は金沢市、山口市、福岡市、宮崎市の4市であった。

その状況をマクロ的にみたのが表11である。

表11 生コンクリートの価格の状況

(単位：円
特別区=100)

区 分		最 高	最 低	平 均	標 準 偏 差
18	価 格	16,100 (津市)	9,000 (水戸市)	13,043	1,605.2
	指 数	153	86	124	15.3
19	価 格	14,510 (松江市)	12,200 (鹿児島市)	13,336	679.6
	指 数	—	—	—	—
20	価 格	14,630 (松江市)	12,300 (鹿児島市)	13,441	688.3
	指 数	—	—	—	—
21	価 格	14,740 (松江市)	10,500 (宮崎市)	13,011	1,316.8
	指 数	—	—	—	—

なお、スラブ18cmの価格の偏差についてみると、平均は13,043円標準偏差は1,605円を示し、標準偏差内($\bar{x} - s < \text{区間} < \bar{x} + s$)にあるデータ数は、47個中34個と全体の72.3%を占めており、標準偏差の

平均に対する割合は12.3%となっている。

また、データの範囲等をみると、最高値16,100円（津市）、最低値9,000円（水戸市）、データの範囲7,100円を示している。

生コンクリートの価格の地域差をみるために、全国を14地域に区分して東京都（特別区）を100とした指数で示したものが表12である。

表12 生コンクリート価格の地域差（指数）

（特別区=100）

北海道	東北	北関東	南関東	北陸	中部	中京	北近畿	南近畿	山陰	山陽	四国	北九州	南九州
131	131	107	105	118	130	138	140	137	136	132	128	112	114

表12をみると、今回の調査においては、南・北関東の価格が極めて低く、南・北九州がそれに続いて低くなっているが、それ以外の地域では全て高くなっている。特に中京及び南・北近畿の二地域、いわゆる二大都市圏の地域で高くなっていることがわかる。

1 鉄筋

鉄筋については、鉄筋コンクリート用異形棒鋼（JIS規格SD30）・径19～25mmのものについて調査した。

その状況をマクロ的にみたのが表13である。

表13 鉄筋価格の状況

（単位：円）
（特別区=100）

区分	最高	最低	平均	標準偏差
価格	68,800 （岡山市）	47,700 （名古屋市）	58,515	3,638.3
指数	121	84	103	6.3

この表では、平均103、最高値121（岡山市）、最低値84（名古屋市）、標準偏差6.3、標準偏差の平均に対する割合は6.1%、データの範囲87となっている。

また、価格の偏差についてみると、平均は58,515円、標準偏差は3,638円を示し、標準偏差内($\bar{x}-s$ < 区間 < $\bar{x}+s$)の中にあるデータ数は47個中39個と全体の83.0%を占めており、標準偏差の平均に対する割合は6.2%となっている。これは、前述の生コンクリートに比べてはるかに小さい値となっており、鉄筋の価格の方が、生コンクリートの価格よりも均一的になっていることが分かる。なお、データの範囲は最高値68,800円(岡山市)、最低値47,700円(名古屋市)、データの範囲21,100円を示している。

これを、地域差をみるために全国を14地域に区分して、東京都(特別区)を100とした指数で示したものが表14である。

表14 鉄筋価格の地域差(指数)

(特別区=100)

北海道	東北	北関東	南関東	北陸	中部	中京	北近畿	南近畿	山陰	山陽	四国	北九州	南九州
105	106	104	100	102	103	95	100	99	102	106	105	97	107

表14によると、南九州における鉄筋の価格が最も高く(107)、中京のそれが最も低いが(95)、各地域間のばらつきはかなり小さく、前述のことを裏付けている。

5 施工会社及び販売形態の状況調査

昭和60年度調査では、調査対象家屋の施工を請け負った建築会社の区分及びその販売形態についても調査したので、以下その状況を説明する。

ア 施工会社の状況

施工会社の状況については、表15のとおりである。

表15 施工会社の状況(その1)

区 分	建設大臣登録	知事登録
社 数	26	21

今回の調査においては、建設大臣登録と知事登録のそれぞれの会社数は

ほぼ60%：40%の割合で建設大臣登録の会社の方が多かった。

また、本年度の調査対象家屋を住戸数あるいは工事価額の各段階区分別に施工会社の状況を見ると、表16のとおりである。

表16 施工会社の状況(その2)

(住戸数別)

(工事価額別)

住戸数 (戸)	棟数	施工会社の状況	
		建設大臣 登録	知事 登録
50～	2	2	—
40～49	5	5	—
30～39	16	9	7
20～29	18	8	10
10～19	6	2	4

工事価額 (億円)	棟数	施工会社の状況	
		建設大臣 登録	知事 登録
4～	2	2	—
3～4	6	6	—
2～3	19	10	9
1～2	19	8	11
～1	1	—	1

表16から明らかなように、規模の大きいものあるいは工事価額が大きいものは、比較的建設大臣登録の会社が施工する事例が多かった。

1 販売形態の状況

販売形態の状況については、表17のとおりである。

表17 販売形態の状況

区 分	分 譲		賃 貸	
	民間会社	公団・公社	民間会社	公団・公社
棟 数	11	1	27	8

表17から、今回の調査においては、民間会社の賃貸住宅が調査対象家屋の半数以上を占めていたことがわかる。

Ⅲ 計数資料等

(1) 別表1 共同住宅(RC造)に係る建築価額等の状況(指数:特別区=100)

都 道 府 名	調 査 対 象 都 市 名	建 築 価 額		再 建 築 費 評 点 数		修 正 建 築 価 額		評 点 水 準 (C)/(A) (%)	
		価 額	指 数	評 点 数	指 数	価 額	指 数		
		(A) (円)	(B)	(C)	(D)	(A)/(D) (円)	(E)		
北 海 道	札幌市	92,124	57	89,847	91	101,285	62	98	
	青森市	168,187	108	9,0894	92	182,757	112	54	
	岩手県	150,626	92	118,259	116	129,850	80	75	
	宮城県	151,145	98	98,718	96	157,442	97	62	
	秋田県	147,942	91	99,787	102	145,041	89	67	
	山形県	118,891	67	94,757	97	116,897	72	84	
福 井 県	福 井 市	118,515	78	85,588	87	168,224	84	72	
茨 城 県	水戸市	141,442	87	84,546	86	164,467	101	60	
	栃木県	112,777	69	89,882	92	122,588	75	80	
	群馬県	122,125	75	76,996	79	154,588	95	68	
	埼玉県	159,699	98	80,147	82	194,754	119	50	
	千葉県	111,008	68	79,196	81	137,046	84	71	
	東京都	特別区	162,854	100	97,852	100	162,854	100	60
神 奈 川 県	横浜市	159,119	98	92,969	95	171,425	105	58	
	新潟市	141,756	87	80,489	82	172,878	106	57	
	富山県	188,009	85	79,877	81	170,881	105	61	
石 川 県	金沢市	146,051	90	95,818	97	150,568	92	65	
	福井県	128,688	79	94,700	97	132,668	81	74	
	山梨県	156,494	96	86,477	88	177,894	109	55	
長 野 県	長野市	166,408	102	85,721	88	189,100	116	52	
	岐阜県	186,851	84	84,492	86	159,129	98	62	
	静岡県	114,150	70	77,996	80	142,687	88	68	
	愛知県	名古屋	108,668	64	88,801	86	120,588	74	81
	三重県	津市	116,928	72	72,467	74	158,010	97	62
	滋賀県	大津市	141,484	87	88,488	85	166,451	102	59
京 都 府	京都市	128,660	79	90,240	92	139,847	86	70	
	大阪府	128,416	76	94,848	96	128,557	79	76	
	兵庫県	108,674	67	72,827	74	146,856	90	67	
	奈良県	奈良市	133,492	82	78,207	80	166,865	102	59
和 歌 山 県	和歌山市	122,789	75	80,899	82	149,681	92	66	
鳥 取 県	鳥取市	147,128	90	85,050	87	169,108	104	58	
	徳島県	140,427	86	70,808	72	195,087	120	50	
	岡山県	146,294	90	75,898	78	187,556	115	52	
	広島県	180,561	80	76,602	78	167,885	108	59	
山 口 県	山口市	152,184	98	78,917	76	200,176	128	49	
徳 島 県	徳島市	100,514	62	75,756	77	130,587	80	75	
	香川県	114,588	70	79,952	82	139,651	86	70	
	愛媛県	114,457	70	78,800	81	141,804	87	69	
	高知県	130,001	80	78,905	81	160,495	99	61	
福 岡 県	福岡市	108,487	67	80,248	82	132,240	81	74	
	佐賀県	106,942	66	86,812	88	121,525	75	81	
	長崎県	107,820	68	86,885	88	122,522	75	81	
	熊本県	116,896	71	88,486	85	136,986	84	72	
	大分県	94,574	58	80,848	82	115,884	71	85	
	宮崎県	99,882	61	80,881	83	120,279	74	81	
	鹿児島県	121,989	75	79,086	81	150,541	92	65	
	沖縄県	那覇市	145,447	89	78,819	75	198,929	119	50
標 準 偏 差	高	20,188	124	8,872	85	24,887	149	109	
	最	青森市	青森市	盛岡市	盛岡市	山口市	山口市	札幌市	
	最	168,187	108	118,259	116	200,176	128	98	
	平	札幌市	札幌市	松江市	松江市	札幌市	札幌市	山口市	
均		92,124	57	70,808	72	101,285	62	49	
		129,698	80	84,187	86	150,812	98	66	

(2) 別表2 共同住宅(RC造)に係る部分別構成比の状況

			(単位:%)													
都道府県	道名	府名	調査対象市名	主体構造部	基礎	間仕切組	外仕上げ	内仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	器具	組築備	仮設工	その他工事	
北海道	道	札幌市	札幌市	29	2	2	4	10	4	2	2	12	25	8	5	
			札幌市	80	12	2	6	9	4	8	2	10	18	8	2	
			札幌市	89	9	1	5	7	5	2	1	8	18	8	2	
			札幌市	86	9	1	4	8	5	2	1	8	21	8	2	
			札幌市	87	7	1	6	6	8	8	1	10	20	4	2	
			札幌市	28	4	2	4	9	6	5	2	11	21	4	4	
北海道	道	旭川市	旭川市	88	1	8	5	8	8	6	1	7	18	8	2	
			旭川市	85	4	5	6	10	6	8	1	8	19	2	2	
			旭川市	27	6	2	10	10	5	4	2	9	17	4	8	
			旭川市	82	5	8	6	10	6	8	2	9	19	4	2	
			旭川市	82	6	2	5	10	6	4	1	9	18	4	8	
			旭川市	26	8	4	4	18	7	8	1	14	18	4	2	
東京都	都	中央区	中央区	82	9	2	8	8	5	8	2	10	21	8	2	
			中央区	82	2	8	7	9	6	8	2	11	20	8	2	
			中央区	81	8	2	1	7	6	8	1	8	27	4	2	
			中央区	84	6	8	4	9	4	8	2	11	18	4	2	
			中央区	85	4	8	8	9	5	4	1	9	28	8	2	
			中央区	84	4	1	7	12	5	8	2	10	12	4	2	
東京都	都	品川区	品川区	86	1	8	8	11	5	8	1	11	21	2	2	
			品川区	81	5	8	8	9	5	4	1	9	24	8	2	
			品川区	88	4	2	1	10	6	4	1	14	20	4	8	
			品川区	80	9	2	4	10	6	2	1	9	22	4	2	
			品川区	81	1	4	5	11	7	4	2	10	19	4	8	
			品川区	88	5	-	8	10	7	8	1	9	18	4	8	
東京都	都	港区	港区	89	1	8	10	9	4	8	1	7	18	4	2	
			港区	80	8	2	5	9	7	8	1	12	28	8	2	
			港区	29	8	8	2	8	5	8	1	9	25	4	4	
			港区	88	5	2	2	9	7	4	2	11	17	4	8	
			港区	86	8	1	2	12	6	8	1	8	21	4	2	
			港区	82	2	4	8	11	5	5	1	11	19	5	2	
東京都	都	墨田区	墨田区	86	5	2	6	6	5	8	2	18	16	8	2	
			墨田区	88	4	1	2	9	7	2	1	8	27	8	8	
			墨田区	28	6	8	2	10	7	8	1	8	25	5	8	
			墨田区	87	5	2	5	11	6	4	1	9	14	4	2	
			墨田区	84	11	2	8	10	6	4	2	9	18	4	2	
			墨田区	84	5	1	8	8	6	4	2	12	16	4	2	
東京都	都	荒川区	荒川区	88	8	2	4	12	4	8	2	7	19	4	2	
			荒川区	29	8	4	5	11	5	8	1	10	19	8	2	
			荒川区	26	12	2	2	8	5	4	1	9	26	4	2	
			荒川区	80	7	1	2	9	6	8	2	12	28	4	2	
			荒川区	29	7	2	6	9	5	8	1	8	22	8	6	
			荒川区	42	1	8	8	11	6	8	1	9	18	4	8	
東京都	都	目黒区	目黒区	27	8	2	4	11	4	8	2	18	25	4	2	
			目黒区	88	12	2	2	18	4	2	1	8	17	4	2	
			目黒区	89	5	1	1	8	6	4	1	12	17	4	2	
			目黒区	80	16	2	8	8	6	2	1	18	14	4	2	
			目黒区	86	8	8	4	18	6	8	1	11	14	4	4	
			目黒区	86	8	8	4	18	6	8	1	11	14	4	4	
東京都	都	台東区	台東区	8.8	8.4	1.0	2.1	1.9	1.0	1.0	0.8	1.8	8.7	0.6	0.9	
			台東区	42	16	5	10	18	8	6	2	14	27	5	6	
			台東区	26	1	1	1	8	8	2	1	7	12	2	2	
			台東区	88	6	2	4	9	6	8	1	10	20	4	2	
			台東区	42	16	5	10	18	8	6	2	14	27	5	6	
			台東区	26	1	1	1	8	8	2	1	7	12	2	2	

(3) 別表3 共同住宅(RC造)に係る部分別評点数の状況

(単位:点,指数:特別区=100)

都道府県	調査対象都府市名	主体構造部		基礎		間仕切骨組		外部仕上げ		内部仕上げ		床仕上げ		
		評点数	指数	評点数	指数	評点数	指数	評点数	指数	評点数	指数	評点数	指数	
北海道	札幌市	25806	82	2219	25	1448	66	8591	45	9316	889	3371	80	
	青森市	27,619	88	10,918	121	1505	69	5341	65	8069	294	3528	78	
	岩手市	44,190	141	10,842	115	1,190	54	5,641	68	8,886	305	5,570	115	
	宮城県	仙台市	83,372	106	8,848	98	980	45	8,414	41	7,750	288	4,487	92
	秋田県	秋田市	37,282	119	6,702	68	1,120	51	5,839	68	6,566	289	3,448	71
山形県	鶴岡市	26,962	86	8,898	48	1,720	79	3,599	44	8,492	309	5,753	119	
	福島市	82,676	104	1,221	14	2,245	108	4,251	52	6,658	242	6,468	138	
茨城県	水戸市	29,722	95	8,689	41	4,190	192	4,677	57	8,308	302	4,901	101	
	宇都宮市	24,485	78	5,739	64	2,222	102	3,870	107	9,362	341	4,331	89	
	前橋市	24,266	77	3,611	40	2,010	92	4,841	59	7,331	269	4,908	101	
	浦和市	25,694	82	4,847	54	1,820	83	4,037	49	8,233	301	4,824	99	
	千代田市	20,861	66	2,847	26	3,547	162	3,034	37	10,036	365	5,372	121	
	東京都	特別区	31,381	100	9,008	100	2,186	100	8,254	100	2,748	100	4,854	100
	神奈川	横浜市	29,684	95	2,258	25	2,654	121	6,475	78	8,355	304	5,660	117
新潟県	新潟市	25,128	80	6,197	69	1,416	65	665	8	5,670	206	4,775	98	
	富山市	26,717	85	4,659	52	2,100	96	8,015	87	7,409	270	3,441	71	
	石川	金沢市	88,216	106	3,502	89	3,242	148	2,750	38	8,103	295	4,808	89
福井県	福井市	86,327	116	8,612	40	748	84	7,100	86	11,119	405	4,852	100	
	山梨	甲府市	81,441	100	944	10	2,905	138	2,257	27	9,744	355	4,196	86
長野県	長野市	26,884	86	4,566	51	2,485	114	2,621	82	7,672	279	4,076	84	
	岐阜	岐阜市	27,502	88	2,978	38	2,065	94	3,921	11	8,329	303	4,767	98
静岡県	岡崎市	23,367	74	6,928	77	1,505	69	3,248	39	7,421	270	4,369	90	
	愛知	名古屋市	26,228	84	1,136	13	2,998	137	4,472	54	9,090	331	5,885	121
三重県	津市	27,451	87	8,710	41	-	-	2,234	27	7,357	268	4,965	102	
	滋賀	大津市	82,168	108	629	7	2,450	112	8,408	102	7,866	286	8,574	74
京都府	京都市	27,166	87	2,267	25	1,758	80	4,433	54	8,298	302	5,979	123	
	大阪府	大阪市	27,291	87	7,390	82	2,821	129	2,209	27	7,328	285	5,014	103
兵庫県	神戸市	24,359	78	8,898	41	1,120	51	1,424	17	6,228	226	5,014	103	
	奈良	奈良市	23,369	90	2,493	28	725	33	1,812	22	9,536	347	4,490	93
和歌山県	和歌山市	25,938	88	1,639	19	3,458	158	2,430	29	9,160	333	4,330	89	
	鳥取	鳥取市	31,040	99	4,132	46	1,479	68	5,233	68	4,727	172	4,049	83
島根県	松江市	23,404	75	2,710	80	885	18	1,105	18	6,079	221	5,031	104	
	岡山	岡山市	20,985	67	4,805	53	2,426	111	1,133	14	7,751	282	5,587	115
広島県	広島市	27,974	89	3,796	42	1,715	73	3,659	44	8,737	313	4,233	87	
	山口	山口市	25,077	80	7,957	33	1,573	72	2,546	31	7,076	257	4,560	94
徳島県	徳島市	25,444	81	3,306	42	1,039	43	2,545	81	6,379	232	4,696	97	
	香川	高松市	26,279	84	6,245	69	1,653	76	3,163	38	9,523	347	3,596	74
愛媛県	松山市	23,100	74	6,533	73	3,361	154	3,302	46	8,867	323	4,044	88	
	高知	高知市	20,546	65	3,293	103	1,260	53	1,569	19	6,234	229	3,653	75
福井県	福井市	24,304	77	5,433	61	1,033	50	1,355	16	6,390	254	4,737	99	
	佐賀	佐賀市	24,615	78	5,679	63	1,337	66	4,923	60	7,537	274	4,621	95
長崎県	長崎市	36,570	117	1,110	12	2,226	102	2,321	34	9,255	337	4,965	102	
	熊本	熊本市	22,725	72	2,333	26	2,003	92	3,469	42	9,146	333	3,313	63
大分県	大分市	26,175	83	3,316	109	1,601	73	1,276	15	10,133	369	3,521	73	
	宮崎	宮崎市	31,833	101	4,019	45	1,400	64	3,071	10	6,253	223	4,729	97
鹿児島県	鹿児島市	23,575	75	12,333	133	1,190	54	2,679	32	6,241	227	5,044	104	
	沖縄	那覇市	26,132	83	1,972	22	1,339	39	2,619	32	9,651	351	4,349	90
標準	偏差	4678	150	2,363	31.7	340	37.3	1,930	24.1	1,527	55.3	746	154	
	最高	盛岡市	44,190	141	12,333	133	4,190	192	3,870	107	11,119	405	6,468	138
最低	低	高知市	20,546	65	629	7	385	18	665	8	2,748	100	3,313	63
	平均	均	27,725	83	4,772	53	1,391	38	3,543	43	7,393	237	4,623	95

都道府県	道名	調査対象都市名	天井仕上げ		屋根仕上げ		道具		建築設備		仮設工事		その他の工事			
			評点数	指数	評点数	指数	評点数	指数	評点数	指数	評点数	指数	評点数	指数		
北海道	道	札幌市	2,128	69	1,004	68	10,476	110	22,742	110	2,868	80	4,788	280		
		青森市	2,449	79	1,248	84	8,902	98	16,155	78	2,960	100	1,710	100		
		岩手県	2,560	88	1,102	74	8,686	90	20,662	100	2,960	100	1,966	115		
		宮城県	1,429	46	1,158	78	7,880	82	19,705	96	2,960	100	1,710	100		
		秋田県	2,501	81	1,188	80	9,799	102	19,772	96	3,552	120	2,228	180		
		山形県	4,650	151	2,049	188	10,778	118	19,894	96	3,552	120	3,420	200		
		福島県	4,781	154	1,196	81	6,376	67	15,041	78	2,960	100	1,710	100		
		茨城県	水戸市	2,185	69	656	44	6,728	70	15,971	77	1,864	68	1,710	100	
		栃木県	宇都宮市	3,856	125	1,610	108	8,140	85	15,150	78	3,552	120	2,565	150	
		群馬県	前橋市	2,160	70	1,265	85	7,041	74	14,848	72	2,960	100	1,710	100	
東京都	都	埼玉市	8,087	100	1,060	71	6,882	71	14,188	69	2,980	100	2,565	150		
		千葉市	2,084	68	918	62	11,455	120	14,822	69	2,960	100	1,710	100		
		東京都	8,081	100	1,484	100	9,568	100	20,623	100	2,960	100	1,710	100		
		神奈川	2,629	85	1,498	101	10,452	109	18,624	90	2,960	100	1,710	100		
		新潟県	新潟市	2,562	88	1,209	81	6,888	66	21,814	106	2,960	100	1,710	100	
		富山県	富山市	2,597	84	1,898	94	9,117	95	14,254	69	2,960	100	1,710	100	
		石川県	金沢市	3,546	115	844	57	8,915	98	21,908	106	3,108	105	1,881	110	
		福井県	福井市	3,145	102	1,567	106	9,542	100	10,918	58	3,552	120	2,228	180	
		山梨県	甲府市	2,451	80	788	58	9,750	102	18,219	88	2,072	70	1,710	100	
		長野県	長野市	3,874	110	1,201	81	7,684	80	20,588	100	2,960	100	1,710	100	
岐阜県	県	岐阜市	3,004	98	910	61	12,047	126	16,519	80	3,256	110	2,228	180		
		静岡市	1,533	50	598	40	7,315	76	17,218	88	2,960	100	1,539	90		
		愛知県	3,149	102	1,501	101	8,508	89	15,264	74	2,960	100	2,565	150		
		三重県	2,091	68	558	37	6,852	66	12,571	61	2,960	100	2,228	180		
		滋賀県	大津市	2,385	77	520	35	5,492	57	15,821	74	2,960	100	1,710	100	
		京都府	京都市	2,858	98	1,187	80	10,887	114	20,405	99	2,960	100	2,052	120	
		大阪府	大阪市	2,498	81	507	34	3,628	90	23,182	112	3,552	120	3,420	200	
		兵庫県	神戸市	3,207	104	1,417	95	7,914	88	12,589	61	2,960	100	2,052	120	
		奈良県	奈良市	2,152	70	812	55	6,410	67	16,437	80	3,256	110	1,710	100	
		和歌山県	和歌山市	3,788	121	520	35	9,007	94	14,576	71	3,848	180	1,710	100	
鳥取県	県	鳥取市	2,926	95	1,829	128	11,468	120	18,447	65	2,960	100	1,710	100		
		島根県	松江市	1,250	41	705	48	5,482	57	18,958	92	2,868	80	2,228	180	
		岡山県	岡山市	2,382	77	668	44	5,861	61	18,653	90	3,551	120	2,051	120	
		広島県	広島市	2,966	96	880	59	7,126	75	10,846	58	2,960	100	1,710	100	
		山口県	山口市	3,184	108	1,430	96	6,491	68	9,858	45	2,960	100	1,710	100	
		徳島県	徳島市	3,395	110	1,545	104	9,868	98	12,041	58	2,960	100	1,881	110	
		香川県	高松市	2,517	82	1,601	108	5,348	56	15,852	74	2,960	100	1,710	100	
		愛媛県	松山市	2,277	74	787	58	7,678	60	14,802	72	2,181	72	1,868	80	
		高知県	高知市	3,192	104	1,087	78	6,814	71	20,527	100	2,960	100	1,710	100	
		福岡県	県	福岡市	2,487	79	1,278	98	9,472	99	18,289	89	2,960	100	1,710	100
佐賀県	佐賀市			2,258	78	1,175	79	6,907	72	18,620	90	2,960	100	5,180	300	
長崎県	長崎市			2,747	89	1,212	82	3,170	85	11,584	56	3,552	120	2,228	180	
熊本県	熊本市			2,287	74	1,549	104	11,001	115	20,755	101	2,960	100	1,710	100	
大分県	大分市			1,529	50	698	47	6,280	66	18,748	67	3,581	121	1,710	100	
宮崎県	宮崎市			3,420	111	650	44	9,692	101	18,558	66	2,960	100	1,710	100	
鹿児島県	鹿児島市			1,402	46	585	39	9,920	104	11,892	55	2,960	100	1,710	100	
沖縄県	那覇市			1,940	63	600	40	7,776	81	10,778	52	2,960	100	2,565	150	
標準偏差	均			高松市	822	24.1	388	30.0	1,768	18.6	3,592	17.4	388	18.1	788	432
				福島市	4,781	154	2,049	188	12,047	126	23,182	112	3,848	180	5,180	300
		松江市	1,250	41	507	34	5,348	56	9,858	45	1,864	68	1,868	80		
		大分市	2,678	87	1,092	74	8,887	87	16,427	80	3,011	102	2,088	122		
		熊本市														
		名古屋市														
		岐阜市														
		京都市														
		大阪市														
		和歌山市														

附表1 主体構造部及び基礎に係る施工量等の状況

都道府県	調査対象都市名	主体構造部		基礎		地盤	
		鉄筋使用量 (t/m ²)	コンクリート使用量 (m ³ /m ²)	杭の使用本数 (本/m ²)	使用杭の種類		
北海道	札幌市	0.048	0.61	—	—	普通	
	青森市	0.069	0.658	0.186	鉄筋コンクリート杭	軟弱	
	岩手県	0.121	1.058	0.181	鉄筋コンクリート杭	やや軟弱	
	宮城県	0.109	0.717	0.014	場所打コンクリート杭	普通	
	秋田県	0.11	0.850	0.12	鉄筋コンクリート杭	普通	
	山形県	0.069	0.678	0.146	鉄筋コンクリート杭	普通	
	福島県	0.092	0.78	—	—	軟弱	
茨城県	水戸市	0.084	0.698	0.024	鉄筋コンクリート杭	普通	
	栃木県	0.069	0.57	0.04	PCパイプ	普通	
	群馬県	0.071	0.571	0.03	鉄筋コンクリート杭	普通	
	埼玉県	0.07	0.61	0.01	場所打コンクリート杭(アースドリル工法)	普通	
	千葉県	0.058	0.498	0.022	鉄筋コンクリート杭	普通	
	東京都	0.09	0.78	0.088	場所打コンクリート杭(アースドリル工法)	普通	
	神奈川県	0.07	0.75	—	—	普通	
新潟県	新潟市	0.064	0.615	0.10	鉄筋コンクリート杭	普通	
	富山県	0.076	0.685	0.076	鉄筋コンクリート杭	普通	
	石川県	0.079	0.781	0.08	PCパイプ	やや軟弱	
	福井県	0.109	0.76	0.085	鉄筋コンクリート杭	やや軟弱	
山梨県	甲府市	0.08	0.77	—	—	堅固	
	長野県	0.07	0.65	0.10	鉄筋コンクリート杭	普通	
	岐阜県	0.081	0.626	0.08	鉄筋コンクリート杭	普通	
	静岡県	0.060	0.57	0.08	鉄筋コンクリート杭	普通	
	愛知県	0.07	0.64	—	—	普通	
	三重県	0.08	0.68	0.08	鉄筋コンクリート杭	普通	
	滋賀県	大津市	0.11	0.78	—	—	普通
京都府		0.08	0.62	—	—	普通	
大阪府		0.08	0.624	0.01	場所打コンクリート杭	軟弱	
兵庫県		0.065	0.584	0.39	高強度PCパイプ(ACパイプ)	普通	
奈良県		0.078	0.728	0.078	鉄筋コンクリート杭	普通	
和歌山県	和歌山市	(不明確)	(不明確)	0.01	鉄筋コンクリート杭	軟弱	
	鳥取県	0.098	0.726	0.045	鉄筋コンクリート杭	普通	
	島根県	0.062	0.568	0.082	PCパイプ	普通	
	岡山県	0.075	0.617	0.008	場所打コンクリート杭	普通	
	広島県	0.07	0.69	0.08	鉄筋コンクリート杭	普通	
山口県	山口市	0.06	0.68	0.56	PCパイプ	普通	
	徳島県	(不明確)	(不明確)	0.109	鉄筋コンクリート杭	普通	
	香川県	0.074	0.57	0.072	鉄筋コンクリート杭	普通	
	愛媛県	0.08	0.52	0.06	PCパイプ	普通	
	高知県	0.058	0.508	0.095	鉄筋コンクリート杭	普通	
福岡県	福岡市	0.064	0.59	0.06	場所打コンクリート杭	普通	
	佐賀県	0.068	0.581	0.055	鉄筋コンクリート杭	普通	
	長崎県	0.094	0.906	—	—	普通	
	熊本県	0.057	0.56	0.052	HEAVY PILE(遠心力成形高強度)・C筋杭)	普通	
	大分県	0.078	0.612	0.129	鉄筋コンクリート杭	普通	
	宮崎県	0.115	0.682	0.09	—	普通	
	鹿児島県	0.062	0.569	0.125	鉄筋コンクリート杭	普通	
	沖縄県	(不明確)	(不明確)	0.044	鉄筋コンクリート杭	やや軟弱	
	標準	偏差	0.017	0.106	0.101		
		最高	盛岡市	盛岡市	山口市		
		0.121	1.058	0.56			
最低		札幌市	千葉県	岡山市			
	0.048	0.498	0.008				
平均		0.078	0.658	0.084			

附表2 建築設備に係る部分別計点数と設備内容

都道府県名	調査対象都市名	電 気 設 備										
		評点数 (点/m)	動力 配 設	力 線 備	電灯コン セント配 設	蛍光灯用 器 具	白熱灯用 器 具	電 配 設	話 線 備	呼出番号 設 備	インターホ ン 配 設	テレビジョン 共同聴 取 設 備
北海道	札幌市	4,086	○	○	○			○	○	○	○	
	青森市	3,839	○	○	○			○			○	
	岩手市	5,289	○	○	○	○					○	
	宮城県	5,109	○	○	○	○	○				○	
	秋田市	4,868	○	○	○	○	○				○	
	山形市	6,500	○	○	○	○	○				○	電鈴設備(電池式)
福島	福島市	3,788	○	○	○	○	○		○		○	
	茨城県	4,887	○	○	○	○	○		○		○	
	栃木市	4,918	○	○	○	○					○	
	群馬県	4,287	○	○	○	○		○			○	
	埼玉市	3,656	○	○	○	○	○				○	
	千葉県	5,259	○	○	○	○	○				○	
東京都	特別区	5,037	○	○	○	○	○	○			○	
	神奈川	5,588	○	○	○	○	○			○	○	盗難非常通報装置
新潟	新潟市	2,999	○	○	○						○	
	富山市	3,925	○	○	○	○					○	
	富川市	5,225	○	○	○	○	○			○	○	盗難非常通報装置
	福井市	4,481	○	○	○	○					○	
山梨	甲府市	5,985	○	○	○	○	○	○		○	○	
	長野市	4,079	○	○	○	○	○			○	○	
	岐阜県	4,065	○	○	○	○	○				○	
	静岡県	3,508	○	○	○	○	○				○	
	知知	2,707	○	○	○	○				○	○	
	三重	5,592	○	○	○	○	○				○	
滋賀	大津市	4,189	○	○	○	○	○	○			○	
	京都府	5,171	○	○	○	○	○	○		○	○	
	大阪府	4,088	○	○	○	○	○	○		○	○	
	兵庫県	4,524	○	○	○	○	○	○	○		○	
	奈良市	4,999	○	○	○	○	○				○	
	和歌山	3,560	○	○	○	○	○				○	
鳥取	鳥取市	4,459		○	○	○	○	○			○	
	島根	4,758		○	○	○	○		○		○	
	岡山市	3,510	○	○	○	○	○			○	○	
	広島市	2,619		○	○	○	○	○			○	
	山口市	2,326		○	○	○	○	○			○	電鈴設備
徳島	徳島市	3,784		○	○	○	○					
	香川	3,782	○	○	○	○	○				○	ドアホン
	愛媛	3,467	○	○	○	○	○				○	
	高知	3,909	○	○	○	○	○				○	盗難非常通報装置
福岡	福岡市	4,099	○	○	○	○	○			○	○	
	佐賀	3,990	○	○	○	○	○			○	○	
	長崎	4,322	○	○	○	○	○	○			○	非常警報装置
	熊本	4,952	○	○	○	○	○	○			○	盗難非常通報装置
	大分	2,388		○	○	○	○				○	
	宮崎	2,899		○	○	○	○				○	電鈴設備(電池式)
	鹿児島	3,574	○	○	○	○	○	○			○	" (")
沖縄	4,056		○	○	○	○	○			○		

都道府 県名	調査対象 都市名	衛 生 設 備								その他の設備
		戸点数 (点/m ²)	給水 設備	排水 設備	中央式 給湯 設備	衛生器具 設備	ユニット バス	ガス 設備	浄化槽 設備	
北海道	札幌市	11595	○	○		○	○	○		洗面化粧台、流し台、 瞬間ガス湯沸器
	青森市	11697	○	○		○	○	○		
	岩手県盛岡市	14960	○	○		○	○	○		
	宮城県仙台市	12581	○	○		○	○	○		
	秋田県秋田市	14516	○	○		○	○	○		
	山形県鶴岡市	12458	○	○		○	○	○		
	福島県福島市	10920	○	○		○	○	○	290	
茨城県	水戸市	9777	○	○		○	○	○		185
	宇都宮市	9158	○	○		○	○	○		
	前橋市	5908	○	○		○	○	○		
	浦和市	7917	○	○		○	○	○		
	千原市	8779	○	○		○	○	○		
	東京都特別区	6720	○	○		○	○	○		
	神奈川県横浜市	11528	○	○		○	○	○		
新潟県	新潟市	19001	○	○		○	○	○	○	流し台(ステンレス)
	富山市	9854	○	○		○	○	○	180	
	金沢市	18028	○	○		○	○	○	290	
	福井市	5245	○	○						
山梨県	甲府市	11665	○	○		○	○	○	80	給湯設備
	長野市	14676	○	○		○	○	○	84	
	岐阜県岐阜市	11161	○	○		○	○	○	○	
	静岡県静岡市	9841	○	○		○	○	○	60	
	愛知県名古屋市中区	12280	○	○		○	○	○		
	三重県津市	4776	○	○		○	○	○		
滋賀県	大津市	7462	○	○		○	○	○		局所式給湯設備、流し台(ステンレス) 洗面台、キッチンユニット設備
	京都市	14725	○	○		○	○	○		
	大阪市	16419	○	○		○	○	○		
	兵庫県神戸市	8065	○	○		○	○	○		
	奈良県奈良市	11469	○	○		○	○	○	○	
	和歌山県和歌山市	10862	○	○		○	○	○	250	
鳥取県	鳥取市	8988	○	○		○	○	○		流し台(ステンレス)
	松江市	18054	○	○		○	○	○		
	岡山市	12507	○	○	○	○	○	○		
	広島県広島市	6780	○	○		○	○	○		
	山口県山口市	6814	○	○		○	○	○		
徳島県	徳島市	8089	○	○		○	○	○		490
	香川県高松市	10098	○	○		○	○	○		
	愛媛県松山市	9888	○	○		○	○	○		
	高知県高知市	15994	○	○		○	○	○		
福岡県	福岡市	12504	○	○		○	○	○	290	140
	佐賀市	10478	○	○		○	○	○	○	
	長崎市	6267	○	○		○	○	○		
	熊本県熊本市	15808	○	○		○	○	○		
	大分県大分市	10971	○	○		○	○	○		
	宮崎県宮崎市	7066	○	○		○	○	○		
	鹿児島県鹿児島市	7688	○	○		○	○	○		
沖縄県那覇市	5851	○	○		○	○	○		流し台(ステンレス)	

都道府県名	調査対象都市名	空調設備			
		評点数 (点/m ²)	換気設備	換気扇 (径:cm)	その他の設備
北海道	札幌市	5,041	○	30	ガス温風暖房設備、レンジフード(ターボ式) 天井扇 レンジフード
	苫小牧市	619		30	
	岩手盛岡市	413		20	
	宮城仙台市	889		20	
	秋田秋田市	393	○	30	
	山形鶴岡市	163		30	
	福島福島市	338		20. 10	
茨城県	水戸市	672		30	レンジフード 直接暖房設備(温水缶)
	宇都宮市	979		○	
	前橋市	1,248	○		
	浦和市	261		30	
	千葉市	284		30	
	特別区	8,866		30. 20	
	横浜市	533		30. 10	
新潟県	新潟市	414			レンジフード
	山形市	475		60. 30	
	金沢市	842	○		
	福井市	142		30	
山梨県	甲府市	569		30	
	長野市	823	○		
	岐阜市	323		40	
	静岡市	160		20	
	名古屋	327		30	
滋賀県	大津市	-			レンジフード
	京都市	509	○		
	大阪市	175		35. 25. 20	
	神戸市	-			
	奈良市	569		50	
和歌山県	和歌山市	654		30	
	取根市	-			
	松江市	196		15. 10	
	岡山市	779	○		
広島県	広島市	427		30	
	山口市	213		20	
	徳島市	218		30	
	高松市	457	○		
愛媛県	松山市	427		30	
	高知市	624	○		
	高知市	624			
福岡県	福岡市	796		30	レンジフード "
	佐賀市	466		30	
	長崎市	322			
	熊本市	-			
	大分市	239		10	
	宮崎	-			
	鹿児島市	180		25	
	那覇市	866		40	

都道府県名	調査対象都市名	防 災 設 備			運 搬 設 備 乗用エレベーター(規格型)・交流型
		評 点 数 (点/mf)	避 雷 突 針 設 備	火 災 報 知 設 備	
北海道	札幌市	-			2,070
	旭川市	-			-
	帯広市	-			-
	旭川市	1,126	○	○	-
	旭川市	-			-
	旭川市	778	○	○	-
茨城県	水戸市	1,185	○	○	-
	宇都宮市	95		○	-
	前橋市	900		○	2,505
	浦和市	93	○		2,211
	千葉市	-			-
	横濱市	930		○	-
新潟県	新潟市	-			-
	金沢市	118	○		2,690
	富山市	1,050		○	-
山梨県	甲府市	-			-
	長野市	960		○	-
	静岡市	970		○	-
	岡崎市	643	○	○	8,071
	名古屋	-			-
滋賀県	津市	644	○	○	8,026
	大津市	-			-
	彦根市	460	○		2,045
	米原市	-			-
	守山市	-			-
鳥取県	鳥取市	-			-
	松江市	950		○	-
	岡山市	106	○	○	1,751
	倉敷市	1,020		○	-
徳島県	徳島市	-			-
	高松市	1,020		○	-
	高松市	1,020		○	-
福岡県	福岡市	890		○	-
	北九州市	1,629		○	2,057
	北九州市	173	○		-
	北九州市	-			-
	北九州市	200		○	-
	北九州市	1,106	○	○	2,482
鹿児島県	鹿児島市	-			-
	鹿儿岛市	-			-

(4) 別表 4 共同住宅(RC造)に係る施工会社及び販売形態の状況

都 道 府 県	調 査 対 象 都 市 名	施 工 (受 注) 会 社		販 売 形 態			
		施 設 大 臣 登 録	知 事 登 録	分 類		賃 貸	
				民 間 会 社	公 社 ・ 公 団	民 間 会 社	公 社 ・ 公 団
北 海 道 青 森 県 岩 手 県 宮 城 県 秋 田 県 山 形 県 福 島 県	札幌市	○		○			○
	旭川市	○					○
	釧路市	○					○
	秋田県	○					○
	山形県	○	○	○			
	福島県	○	○	○			
	水戸市	○					○
茨 木 県 栃 木 県 群 馬 県 埼 崎 県 千 葉 県 東 京 都 神 奈 川 県	宇都宮市		○			○	
	前橋市		○			○	
	浦和市	○		○		○	
	千葉市	○		○		○	
	特別区	○	○	○		○	
新 潟 県 富 士 県 石 川 県 福 井 県	新潟市	○				○	
	富山県	○				○	
	金沢市		○			○	
山 梨 県 長 野 県 群 馬 県 静 岡 県 愛 知 県	甲府市		○			○	
	長野市		○			○	
	沼田市		○			○	
	静岡市		○			○	
	名古屋	○	○		○	○	
滋 賀 県 京 都 府 大 阪 府 兵 庫 市 神 奈 川 県 和 歌 山 県	大津市	○				○	
	京都市	○		○			
	大阪市	○		○			
	神戸市	○	○			○	○
鳥 取 県 岡 山 県 広 島 県 山 口 県	鳥取市	○				○	○
	松江市	○				○	○
	広島市	○	○	○			○
徳 島 県 香 川 県 愛 媛 県 高 知 県	徳島市	○	○			○	
	高松市	○	○			○	
	高知市	○	○			○	○
福 佐 県 佐 長 熊 大 官 鹿 児 神 戸 県	福佐市	○	○	○			
	佐賀市	○		○			
	熊本県	○				○	
	大分県	○	○			○	
	宮崎県	○	○			○	○

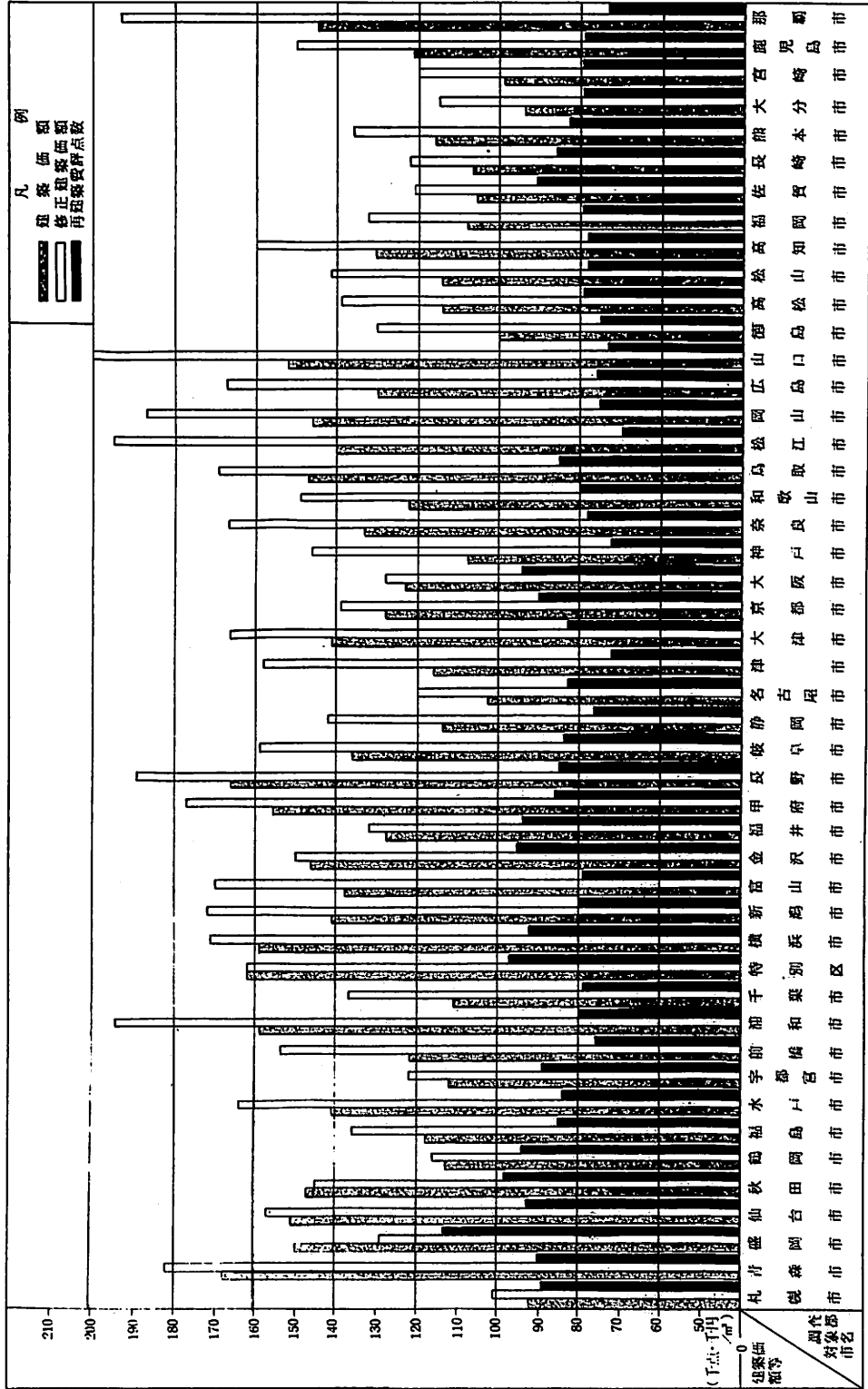
(5) 別表5 主要資材価格の都市別状況

(指数:特別区=100)

都道府県名	調査対象都市名	生コンクリート(呼び強度210kg/cm ²)				指数	鉄筋(SD80係19~25mm:円/1)	
		18	19	20	21		指数	指数
北海道	札幌市	18,700				181	60,000	105
青森	青森市	14,450				188	57,500	101
岩手	盛岡市	15,000				148	62,000	109
宮城	仙台市	12,800	12,900	18,000	18,050	122	60,000	105
秋田	秋田市	11,500				110	56,000	98
山形	鶴岡市	18,000	18,150	18,200	18,300	124	60,000	105
福島	福島市	15,440				147	68,500	120
茨城	水戸市	9,000				86	59,000	104
栃木	宇都宮市	18,000				124	58,000	102
群馬	前橋市	11,500				110	60,000	105
埼玉	浦和市	11,000				105	57,200	100
千葉	千葉市	9,700				92	56,000	98
東京	特別区	10,500				100	57,000	100
神奈川	横浜市	12,700				121	58,000	102
新潟	新潟市	14,200				185	57,000	100
富山	富山市	11,200				107	62,000	109
石川	金沢市	12,850			18,100	122	57,000	100
福井	福井市	11,200				107	57,000	100
山梨	甲府市	18,500				129	60,500	106
長野	長野市	18,100				126	56,000	98
岐阜	岐阜市	14,800				186	60,000	105
静岡	静岡市	18,000				124	60,000	105
愛知	名古屋市	14,400				187	47,700	84
三重	津市	16,100				158	54,500	96
滋賀	大津市	15,700				150	55,000	97
京都	京都市	14,870				187	57,000	100
大阪	大阪市	18,600				180	56,500	99
兵庫	神戸市	15,020				148	68,500	94
奈良	奈良市	14,000				188	59,000	104
和歌山	和歌山市	14,400				187	60,000	105
鳥取	鳥取市	14,200				185	58,000	102
島根	松江市	14,410	14,510	14,680	14,740	187	58,000	102
岡山	岡山市	18,550	18,650	18,750	18,850	129	68,800	121
広島	広島市	14,150				185	57,000	100
山口	山口市	18,850			14,150	182	55,000	97
徳島	徳島市	14,000				188	65,000	114
香川	高松市	18,000	18,150	18,290	18,480	124	58,000	102
愛媛	松山市	18,680	18,790	18,920	14,050	180	60,000	105
高知	高知市	12,990				124	56,000	98
福岡	福岡市	10,200			10,550	97	55,000	97
佐賀	佐賀市	11,500				110	55,000	97
長崎	長崎市	18,550				129	55,500	97
熊本	熊本市	12,400				118	59,500	104
大分	大分市	12,000				114	59,000	104
宮崎	宮崎市	10,000			10,500	95	65,000	114
鹿児島	鹿児島市	12,100	12,200	12,300	12,400	115	59,000	104
沖縄	那覇市	18,200				126	68,500	111
標準	偏差	1,605				158	8,688	68
最	高	15,700				158	88,500	120
最	低	9,000				86	47,700	84
平均		18,048	18,886	18,441	18,011	124	58,515	103

注「生コンクリート」の指数は、スランブ18cmに係るものである。

(6) 別図1 共同住宅（RC造）に係る建築価額等の都市別比較



7) 調査対象都市別の部分別仕上げ資材一覽

都道府県 (調査対象 市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
北海道 (札幌市)	コンクリート打放(下) 91% 石綿セメント板(フ レキブル板) 4% アルミニウム板(成 型板・並) 3% 小口二丁掛タイル(色 物) 2% 〈加算〉 陶磁器質状吹付(磁 器質系・中) 油性ペイント 合成樹脂系ペイント(下 ガラスウール(150% 厚)	合成樹脂壁紙(並・ 無地) 70% 石膏ボード 15% コンクリート打放(下) 12% 角タイル(100%角・ 色物) 2% 小口二丁掛タイル(色 物) 1% 〈加算〉 陶磁器質状吹付(磁 器質系・並) 油性ペイント	じゅうたん(並下) 51% 合成樹脂畳(合成樹 脂床) 19% 軟質クッションフロ ア(中) 22% ラワン合板 5% 防水モルタル 3% 〈加算〉 特殊モルタル 樹脂防水	合成樹脂紙貼(紙葺) 64% 石膏ボード(化粧板) 〃 19% 〃 (吸音板) 〃 11% 〃 (普通板) 5% 岩綿板(塗装吸音板) 1%	アスファルト防水(露 出防水) 100%	木製・フラッシュ戸 (しな合板) アルミサッシュ(ス ライド式・70%) 木製・ふすま(並) 鋼製・フラッシュ戸 (85%) 磨き板ガラス(5%) 普通板ガラス(透明・ 8%) 型板ガラス(4%) 網入板ガラス(磨き 板6.8%)
青森県 (青森市)	コンクリート打放(並) 100% 〈加算〉 陶磁器質状吹付(セ メント系)	石綿セメント板(平 板) 29% 合成樹脂壁紙(並・ 無地) 28% プリント合板 19% ラワン合板 15% コンクリート打放(並) 8%	フローリング(アピ トン) 34% 畳(中) 29% ラワン合板 21% 特殊モルタル(硬化 剤入り・並) 13% フローリング(さく ら) 2%	コンクリート打放(並) 30% 石膏ボード(吸音板) 16% ラワン合板 7% 石膏ボード(普通板) 6%	着色亜鉛鉄板・長尺 板瓦葺葺(0.4%) 99% 着色亜鉛鉄板・長尺 板平葺葺(0.4%) 1% 木製・フラッシュ戸 (合成樹脂被覆合板 ・並)	木製・ふすま(並) アルミサッシュ(ス ライド式・60%) 木製・障子(腰付額 入ガラス共) 木製・フラッシュ戸 (合成樹脂被覆合板 ・並)

注 1. 調査対象都市名の下の数値は、上段・左側が調査対象家屋の階数、右側が住戸数、下段()が1住戸当たり延べ床面積(単位:m²/戸)を示す。
2. 「建具」は、多く使用された資材のみを取り上げた。

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
岩手県 (盛岡市)	陶磁器質状吹付(エ ポキシ樹脂系) 88 % 小口二丁掛タイル(色 物) 18 % モルタル(はげ引き) 4 % 〈加算〉 断熱材	角タイル(100 %角・ 色物) 1 % 〈加算〉 砂壁状合成樹脂吹付 (ビニル系) 断熱材	モルタル(金ごて仕 上) 1 % 〈加算〉 断熱材	合成樹脂紙貼(紙張) 58 % 砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系) 20 % 石膏ボード(吸音板) 18 % " (普通板) 4 %	シート防水(非遊歩 用・合成ゴム系) 100 %	普通板ガラス(透明 ・ 3 %) " (つや 消し・ 3 %)
宮城県 (仙台市)	陶磁器質状吹付(セ メント系)	合成樹脂壁紙(並・ 柄物) 82 % 石膏ボード 8 % モザイクタイル(角 型・色物) 5 % 陶磁器質状吹付(エ ポキシ樹脂系) 5 % 〈加算〉 断熱材	畳(中) 81 % モルタル(金ごて仕 上) 29 % 単板張合板 20 % 軟質クッションフロ ア(中) 17 % ラワン合板 3 % 〈加算〉 モルタル防水	砂壁状セメント系吹 (ひる石系) 68 % 石膏ボード(吸音板) 15 % 石綿セメント板(フレ キシブルボード) 8 % 合成樹脂紙貼(紙張) 6 %	アスファルト防水(モ ルタル・6層) 82 % アスファルト防水(露 出防水) 18 %	木製・サッシュ(ス ライド式・90 %) アルミ・サッシュ(ス ライド式・60 %) 木製・ふすま(並) 型板ガラス(2 %) 普通板ガラス(透明・ 8 %)
宮城県 (仙台市)	合成樹脂壁紙(並・ 無地) 75 % ラワン合板 16 % 角タイル(100 %角・ 白色) 6 % モルタル(金ごて磨 き) 3 % 〈加算〉	合成樹脂壁紙(並・ 無地) 75 % ラワン合板 16 % 角タイル(100 %角・ 白色) 6 % モルタル(金ごて磨 き) 3 % 〈加算〉	畳(中) 81 % モルタル(金ごて仕 上) 80 % 軟質クッションフロ ア(中) 20 % フローリング(アピ トン) 7 % 小口二丁掛タイル(色 物) 7 %	砂壁状セメント系吹 (ひる石系) 68 % 石膏ボード(吸音板) 15 % 石綿セメント板(フレ キシブルボード) 8 % 合成樹脂紙貼(紙張) 6 %	アスファルト防水(モ ルタル・6層) 82 % アスファルト防水(露 出防水) 18 %	木製・ふすま(並) アルミ・サッシュ(ス ライド式・60 %) 鋼製・フラッシュ戸 (85 %) 木製・サッシュ(ス ライド式・90 %) 型板ガラス(4 %)

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
秋田市 (秋田市)	コンクリート打放(並) 94% 小口二丁掛タイル(色 物) 6% <加算> 陶磁器質状吹付(磁 器質系)	合成樹脂壁紙(並・ 無地) 68% コンクリート打放(並) 18% ラワン合板 11% プリント合板 8% <加算> 砂壁状合成樹脂系吹 付(ビニル系)	物) 5% ラワン合板 4% じゅうたん(混毛) 2% モザイクタイル(角 型・色物) 1% モルタル(金ごて仕 上) 31% 畳(中) 15% じゅうたん(混毛) 15% ラワン合板 6% 着色コンクリート床 4% 軟質クッションフロア (中) 3% 塩化ビニルタイル(半 硬質タイル) 2% その他 22%	ラワン合板 8% 合成樹脂紙貼(紙葺) 40% コンクリート打放(中) 12% ラワン合板 7% その他 41%	シート防水 100%	網入板ガラス(型板) 木製・ふすま(中) ク・板戸(ラワン 合板) アルミ・サッシュ(ス ライド式・60%) 木製・障子(腰付額 なし) 型板ガラス(4%) 網入板ガラス(型板)
山形県 (鶴岡市)	陶磁器質状吹付(セ メント系) 91% コンクリート打放(上) 9% <加算>	合成樹脂壁紙(上・ 柄物) 37% モルタル(金ごて仕 上) 9% 石膏ボード 9%	畳(中) 43% じゅうたん(混毛) 29% 軟質クッションフロ ア(中) 11%	単板張合板 44% 合成樹脂紙貼(布葺) 38% 砂壁状セメント系吹 (厚付型セメント) 8%	シート防水(遊歩用 ・ポリイソブチレン 系) 100%	木製・ふすま(並) アルミ・サッシュ(ス ライド式70%) 木製・障子(腰付額 なし)

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
福島県 (福島市)	断熱吸音材	砂壁状セメント系吹付(厚付型セメント) 9% 角タイル(100%角・色物) 5% その他(繊維板) 31%	小口二丁掛タイル(色物) 10% ラワン合板 5% コンクリート直仕上(金ごて仕上) 2%	ラワン合板 5% コンクリート打放(並) 2% その他(バスリップ) 8%		木製・フラッシュ戸(合成樹脂被覆合板・並) 磨き板ガラス(5~6%) 網入板ガラス(磨き板)
福島県 (福島市)	モルタル(はけ引き) 53% 陶磁器質状吹付(セメント系) 35% モルタル(木ごて磨き) 4% 小口二丁掛タイル(色物) 3% その他(防水モルタル・金ごて仕上) 5% (加算) 砂壁状合成樹脂吹付 陶磁器質状吹付(セメント系)	モルタル(金ごて磨き) 29% 繊維壁(石膏ボード下地) 20% 繊維壁(上) 17% ラワン合板 16% プリント合板 14% 陶磁器質状吹付(セメント系) 8% 角タイル(100%角・色物) 1% (加算) 砂壁状セメント系吹付(厚付型セメント) 合成樹脂系エマルジョンペイント	畳(上) 34% ラワン合板 18% モザイクパーケット 14% モルタル(金ごて仕上) 6% モザイクタイル(角型・色物) 5% その他(防水モルタル・金ごて仕上, シート防水モルタル金ごて仕上) 22%	竿縁天井(一重廻り緑・並・目透) 82% 砂壁状合成樹脂吹付 26% ラワン合板 17% 石膏ボード(吸音板) 16% 石棉セメント板(普通板) 5% 合成樹脂板(塩化ビニル 0.8%) 砂壁状合成樹脂吹付(加算) 断熱材 合成樹脂系ペイント(並)	シート防水(非遊歩用・塩化ビニル系) 100%	木製・ふすま(並) アルミ・サッシュ(スライド式・60%) 木製・フラッシュ戸(しな合板) 型板ガラス(4%) 普通板ガラス(透明・8%)

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
茨城県 (水戸市)	小口二丁掛タイル(色物) 26% モルタル(はけ引き) 2% その他(吹付タイル) 72%	合成樹脂壁紙(並・無地) 78% ラワン合板 20% 小口二丁掛タイル 6% 合成樹脂系エマルジョンペイント 1%	畳(中) 51% モザイクパーケット 25% 合成樹脂塗床(ポリウレタン) 11% ラワン合板 4% コンクリート直上(金ごて仕上) 3% モルタル(金ごて仕上) 3% 塩化ビニル(半硬質タイル) 2% クリンカータイル 1%	石膏ボード(着色板) 84% 合成樹脂紙貼(紙葺) 81% 現場調合モルタル吹付 26% ラワン合板 4% 石綿セメント板(フレキソボード・吸音板) 8% 石膏ボード(吸音板) 2%	シート防水(非遊歩用・塩化ビニル系) 87% モルタル防水(エマルジョン系) 13%	木製・ふすま(並) アルミ・サッシュ(スライド式・70%) 木製・フラッシュ戸(しな合板) 木製・障子(腰付頼なし) 網入板ガラス(型板) 普通板ガラス(透明・8%)
栃木県 (宇都宮市)	コンクリート打放(中) 94% モルタル防水(ケイ酸ソーダ系) 4% モルタル(はけ引き) 2% <加算> 合成樹脂系ペイント(並) 砂壁状セメント系吹付(厚付型セメント)	合成樹脂壁紙(並・無地) 69% ラワン合板 12% 角型タイル(100%角・窯変) 11% コンクリート打放(中) 6% 小口二丁掛タイル(窯変) 1% モルタル(金ごて仕上) 1%	合成樹脂被覆合板 44% モルタル防水(ケイ酸ソーダ) 20% 畳(中) 14% 軟質クッションフロア(中) 6% ラワン合板 5% モザイクタイル(角型・色物) 4% 塗膜防水(保護層なし・合成ゴム系) 3%	石膏ボード(普通板) 86% コンクリート打放(中) 25% 合成樹脂紙貼(紙葺) 18% 竿縁天井(一重廻し縁・下) 12% ラワン合板 4% 合成樹脂板(塩化ビニル板・0.8%) 4% 木毛セメント板 1%	アスファルト防水(モルタル・6層) 100%	木製建具 鋼製 アルミニウム建具 ガラス
4・31 (58.1)						
4・16 (62.8)						

都道府県 (調査対象 市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
群馬県 (前橋市)	陶磁器質吹付 74% 小口二丁掛タイル(色 物) 17% 着色石綿セメント板 9%	合成樹脂壁紙(並・ 柄物) 89% 角タイル(100%角・ 色物) 8% ラワン合板 4%	角タイル(100%角・ 色物) 2% 小口二丁掛タイル(色 物) 2% 単板張合板 38% 畳(中) 37% モルタル(金ごて仕 上) 9% 軟質クッションフロ ア(中) 7% ラワン合板 5% 塩化ビニルタイル(半 硬質タイル) 2% クリンカータイル 1% コンクリート直仕上 (金ごて仕上) 1%	<加算> 断熱材 砂壁状セメント系吹 付 石膏ボード 41% 砂壁状セメント系吹 付 88% 石綿セメント板(普 通板) 12% 合成樹脂貼(紙張) 6% ラワン合板 5% 合成樹脂(塩化ビニ ル・0.8%) 3%	シート防水(遊歩用 ・ポリイソプチレン 系) 100%	木製・ふすま(並) アルミ・サッシュ(ス ライド式・60%) 木製・サッシュ(ス ライド式・90%) 鋼製・フラッシュ戸 (85%) 普通板ガラス(透明・ 8%) 型板ガラス(4%)
埼玉県 (浦和市)	陶磁器質吹付(エ ポキシ樹脂系) 100%	合成樹脂壁紙(並・ 柄物) 69% ラワン合板 17% 角タイル(色物) 10% 陶磁器質吹付(エ ポキシ樹脂系) 4%	モザイクパケッ ット 49% 畳(中) 26% モルタル(金ごて仕 上) 8% ラワン合板 8% 軟質クッションフロ ア(中) 5%	合成樹脂貼(紙張) 57% 半縁天井(一重廻り 縁・並) 26% ラワン合板 8% 砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系) 6%	アスファルト防水(モ ルタル・8層) 100%	木製・ふすま(並) アルミ・サッシュ(ス ライド式・70%) 木製・フラッシュ戸 (しな合板) 網入板ガラス(型板) 普通板ガラス(透明・ 8%)

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
千葉県 (千葉市)	吹付タイル 100%	合成樹脂紙(並・無地) 96% 角タイル(100%角・色物) 8% ラワン合板 1%	硬質クッションフロア(中) 2% モザイクタイル(角型・色物) 2%	合成樹脂板(塩化ビニル・0.8%) 3%	塗膜防水(保護層なし・合成ゴム系) 100%	アルミ・網戸(合成樹脂網) アルミ・サッシュ(スライド式・70%) 木製・かまち戸(ラワン) 木製・ふすま(並) 網入板ガラス(磨き板)
東京都 (特別区)	小口二丁掛タイル(窯変) 69% 陶磁器質状吹付(セメント系) 21% 陶磁器質状吹付(エポキシ樹脂系) 5% 砂壁状合成樹脂吹付(アクリル系) 5%	繊維壁(中) 22% 合成樹脂壁紙(並・柄物) 18% プリント合板 16% 角タイル(100%角・色物) 18% モルタル(金ごて磨き) 12%	単板珪合板 38% 畳(中) 33% ラワン合板 14% 合成樹脂塗床(塩化ビニル) 5% 角タイル(75%・色物) 5% モザイクタイル(丸)	砂壁状セメント系吹 60% 合成樹脂紙貼(紙葺) 26% 半硬質繊維板 8% 合成樹脂板(塩化ビニル・0.8%) 6%	アスファルト防水(モルタル・8層) 100%	アルミ・サッシュ(スライド式・70%) 木製・フラッシュ戸(しな合板) 木製・ふすま(並) 木製・障子(腰付額なし) 普通板ガラス(透明・

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
神奈川県 (横浜市)	小口二丁掛タイル(色物) 80% 砂壁状合成樹脂吹付(アクリル系) 20%	木材(杉・ラワン) 10% ラワン合板 8% 小口二丁掛タイル(黒変) 1% 〈加算〉 油精ペイント 陶磁器質吹付(セメント系) 断熱吸音材	型・色物) : 3% 軟質クッションフロア(中) 2%	ラワン合板 5% アルミニウム板(成型板・中) 1%		3% 型板ガラス(4%)
神奈川県 (横浜市)	小口二丁掛タイル(色物) 80% 砂壁状合成樹脂吹付(アクリル系) 20%	合成樹脂壁紙(並無地) 81% ラワン合板 18% 角タイル(100%角・色物) 5% 小口二丁掛タイル(色物) 1%	じゅうたん(混毛) 44% 合成樹脂脛(合成樹脂床) 14% モルタル防水(ケイ酸ソーダ系) 12% 軟質クッションフロア(中) 12% 塗膜防水(保護層なし・合成ゴム系) 6% ラワン合板 5% クリンカータイル(150%角) 4% リノリウム(2%) 2%	合成樹脂紙貼(紙張) 57% 石葺ボード(着色板) 15% ラワン合板 5% アルミニウム板(成型板・中) 1% その他(仕上げなし) 22%	アスファルト防水(モルタル・6層) 88% モルタル防水(ケイ酸ソーダ系) 16% 塗膜防水(保護層なし・合成ゴム系) 1%	木製・フラッシュ戸(しな合板) アルミ・サッシュ(スライド式・70%) 木製・ふすま(並) アコーデオンドア 網入板ガラス(磨き板) 普通板ガラス(透明・8%)

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
新潟県 (新潟市) 4・24 (81.7)	砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系) 100% 〈加算〉 断熱材	プラスター(中) 75% 合成樹脂壁紙(並・ 無地) 15% その他(仕上げなし) 10%	コンクリート直仕上 (金ごて仕上) 1% 埴(中) 41% モザイクパーケット 84% モルタル防水(ケイ 酸ソーダ系) 8% ラワン合板 7% その他(仕上げなし) 10%	軟質繊維板(普通板 ・9%) 58% 石膏ボード(吸音板) 25% ラワン合板 7% その他(仕上げなし) 10% 〈加算〉 合成樹脂ペイント	アスファルト防水(豆 砂利押し・粒の揃っ ているもの) 100% 〈加算〉 断熱材	木製・ふすま(中・ 並) アルミ・サッシュ(ス ライド式・60%) 木製・障子(腰付額 なし) 木製・フ راشシユ戸 (しな合板) 普通板ガラス(透明 ・3%) 型板ガラス(2.4%)
富山県 (富山市) 4・40 (71.7)	モルタル(木ごて磨 き) 100% 〈加算〉 樹脂入りモルタル吹 付	合成樹脂壁紙(上・ 無地) 84% 石膏ボード 9% 石綿セメント板(フ レキシブル板・6.8 %) 陶磁器質状吹付(セ メント系) 8%	軟質クッションフロ ア(中) 46% 埴(中) 19% モルタル(金ごて仕 上) 12% ラワン合板 6% モザイクパーケット 半硬質タイル 8% フローリング(なら) 2%	モルタル(はげ引き) 41% 合成樹脂紙貼(紙裏) 25% ラワン合板 6% その他(化粧石膏ボ ード) 21% その他(仕上げなし) 7% 〈加算〉	砂付ルーフィング 100%	木製・ふすま(並) ク・フ راشシユ戸 (しな合板) アルミ・サッシュ(ス ライド式・70%) アルミ・サッシュ(固 定式・70%) 普通板ガラス(透明 ・3%) 網入板ガラス(磨き板)

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
石川県 (金沢市)	コンクリート打放(並) 79% 小口二丁掛タイル(色物) 6% アルミニウム板(並) 1% モルタル(はけ引き) 1% その他 <加算> 砂壁状セメント系吹付(厚付型セメント)	合成樹脂壁紙(並・柄物) 63% ラワン合板 16% モルタル(金ごて磨き) 12% モルタル(はけ引き) 7% 角タイル(100%角・色物) 2% <加算> 油性ペイント 合成樹脂系ペイント(並) 砂壁状セメント系吹付(厚付型セメント)	その他(仕上げなし) 7% 単板張合板 31% 畳(中) 29% リリウム(2%) 6% ラワン合板 5% モルタル(金ごて仕上) 5% 小口二丁掛タイル(色物) 8% その他(防水モルタル・金ごて仕上) 14% その他(仕上なし) 7%	繊維吹付(石綿)砂壁状セメント系吹付(ひる石系) 合成樹脂紙貼(紙張) 40% 木材(ラワン) 29% ラワン合板 7% モルタル(金ごて仕上) 5% 石膏ボード(吸音板) 5% アルミニウム板(成型板・中) 8% その他(仕上なし) 11% <加算> 合成樹脂ペイント(並) 砂壁状セメント系吹付(ひる石系)	アスファルト防水(露出防水) 100%	木製・ふすま(並) アルミ・サッシュ(スライド式・70%) 木製・障子(腰付額なし) 木製・フ راش ュ 戸 (合成樹脂被覆合板・並) 磨き板ガラス(5~6%) 網入板ガラス(磨き板)
福井県 (福井市)	モルタル(はけ引き) 100%	合成樹脂壁紙(並・無地) 78% ラワン合板 7% 角タイル(75%角・)	畳(中) 88% 軟質クッションフロア(中) 84% じゅうたん(混毛)	単板張合板 88% 合成樹脂被覆合板(並・4%) 35% モルタル(はけ引き)	アスファルト防水(モルタル・6層) 91% 塗膜防水(保藏層あり・合成ゴム系) 9%	木製・ふすま(並) 木製・サッシュ(スライド式・100%) 木製・障子(腰付額)

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
山梨県 (甲府市)	モルタル(はけ引き) 100% <加算> 砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系)	合成樹脂壁紙(並・ 無地) 94% ラワン合板 6%	軟質クッションフロ ア(中) 54% 畳(中) 38% ラワン合板 6% モルタル(金ごて仕 上) 2%	石膏ボード(吸音板) 56% 合成樹脂紙貼(紙葺) 38% ラワン合板 6%	シート防水(非遊歩 用・合成ゴム系) 100%	木製・ふすま(並) アルミ・サッシュ(ス ライド式・60%) 木製・フ راشシ ュ戸 (しな合板) 鋼製・フ راشシ ュ戸 (85%) 網入板ガラス(型板) 網入板ガラス(磨き 板)
長野県 (長野市)	樹脂入りモルタル吹 付 100% <加算> 断熱吸音材	合成樹脂壁紙(並・ 無地) 77% ラワン合板 11% 石綿セメント板(フ	合成樹脂被覆合板 34% モルタル防水(ケイ 酸ソーダ系) 28%	特殊ペイント(多彩 塗料) 28% 合成樹脂被覆合板(並 ・4%) 23%	着色亜鉛鉄板(折板 ・1%) 100% <加算> モルタル防水(ケイ	木製・ふすま(並) アルミ・サッシュ(ス ライド式・70%) 木製・障子(腰付額

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
(59.2)		レキシブル板・4% 6% 角タイル(100%角・ 色物) 3% 石綿セメント板(平 板・6.8%) 1% 油性ペイント 1% 繊維吹付(石綿) 1% 〈加算〉 メタルラス下地	畳(中) 18% ラワン合板 12% 軟質クッションフロ ア(中) 6% 角タイル(100%角・ 色物) 1% コンクリート直仕上 (金こて仕上) 1%	半縁天井(一重廻し 縁・並下) 22% 繊維吹付(岩綿) 19% 石綿セメント板(普 通板・6.8%) 4% 樹脂入りモルタル吹 付 4%	酸ソーダ系) 塗膜防水(保護層な し・エマルジョン系)	木製・フラッシュ戸 (しな合板) 普通板ガラス(透明 ・3%) 網入板ガラス(磨き 板)
岐阜県 (岐阜市)	砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系) 86% 色セメント吹付 18% 小口二丁掛タイル(白 1%	合成樹脂板(塩化ビ ニル・1%) 64% ラワン合板 19% モルタル(金こて磨 き) 8% 角タイル(100%角・ 白色) 2% その他(仕上げなし) 12%	畳(中) 31% 軟質クッションフロ ア(上) 28% 単板強合板 15% モルタル(金こて仕 上) 14% ラワン合板 6% 着色コンクリート床 2% その他(仕上げなし) 4%	木材(杉) 31% 砂壁状セメント系吹 付(ひる石系) 25% 合成樹脂紙貼(紙葺) 15% 色セメント吹付 18% ラワン合板 6% 石膏ボード(吸音板) 5% 油性ペイント 5%	シート防水(保護層 あり・合成ゴム系) 100%	木製・フラッシュ戸 (しな合板) 木製・ふすま(並) アルミ・サッシュ(ス ライド式・70%) 木製・サッシュ(ス ライド式・90%) 網入板ガラス(型板) 型板ガラス(4%)

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
静岡県 (静岡市) 5・20 (66.9)	コンクリート打放(並) 76% 小口二丁掛タイル(色物) 24% 〈加算〉 陶磁器質状吹付(陶器質系)	合成樹脂壁紙(並・無地) 88% モルタル(金ごて磨き) 7% ラワン合板 5% コンクリート打放(並) 5% 〈加算〉 合成樹脂系エマールジョンペイント 陶磁器質状吹付(陶器質)	フローリング(なら) 88% 畳(中) 29% モルタル防水(ケイ酸ソーダ系) 12% コンクリート直上(金ごて仕上) 8% 軟質クッションフロア(中) 6% ラワン合板 4% 着色コンクリート床 8%	砂壁状セメント系吹付(ひる石系) 70% 石綿セメント板(フレキシブルボード・普通板) 14% コンクリート打放(並) 9% ラワン合板 5% 合成樹脂紙貼(紙葺) 2% 〈加算〉 油性ペイント 陶磁器質状吹付(磁器質系)	シート防水(非遊歩道用・塩化ビニル系) 100%	木製・ふすま(並) アルミ・サッシュ(スライド式・60%) アルミ・かまち戸(70%) 木製・サッシュ(スライド式・90%) 型板ガラス(4%) 普通板ガラス(透明・8%)
愛知県 (名古屋市) 4・30 (85.6)	モルタル(はげ引き) 62% コンクリート打放(並) 32% 着色石綿セメント板 5% 石綿セメント板(フレキシブル板) 1% 〈加算〉 陶磁器質状吹付(磁器質)	合成樹脂壁紙(並・無地) 60% モルタル(金ごて磨き) 18% ラワン合板 12% 角タイル(100%角・色物) 6% 着色亜鉛鉄板(成型板・並) 4% 〈加算〉	じゅうたん(混毛) 37% 畳(中) 20% モルタル防水(ケイ酸ソーダ系) 14% リノリウム 13% ラワン合板 6% アスファルト防水(露出防水) 4% クリンカータイル(150%)	合成樹脂紙貼(紙葺) 42% 石綿セメント板(フレキシブルボード・吸音板) 27% 軟質繊維板(吸音板) 18% ラワン合板 7% 化粧鋼板(塩化ビニル葺) 6%	アスファルト防水(露出防水) 71% 塗膜防水(保護層あり・合成ゴム系) 27% アスファルト防水(モルタル・8層) 2%	木製・ふすま(並) アルミ・サッシュ(スライド式・70%) 木製・サッシュ(スライド式・90%) 木製・フラッシュ戸(しな合板) 型板ガラス(4%) 普通板ガラス(透明・8%)

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
三重県 (津市)	器質系) 砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系)	メタルラス下地 油性ペイント 合成樹脂系ペイント	角) 2% 塗膜防水(保護層なし・合成ゴム系) 1% モザイクタイル(角型・色物) 1% 角タイル(100%角・色物) 1% その他(人工芝) 1% 〈加算〉 断熱材	〈加算〉 断熱材	アスファルト防水(露出防水) 100%	普通板ガラス(つや消・3%)
6・86 (72.8)	陶磁器質状吹付(エポキシ樹脂系) 100%	合成樹脂被覆合板上・8%) 70% モルタル(金ごて磨き) 9% 陶磁器質状吹付(エポキシ樹脂系) 8% ラワン合板 6% その他(仕上げなし) 7%	モザイクパーケット 40% 畳(中) 82% 塩化ビニルタイル(軟質タイル) 7% 軟質クッションフロア(中) 7% ラワン合板 4% じゅうたん(混毛) 8% クリンカータイル(180%角) 2% モルタル(金ごて仕上) 1%	プリント合板 48% 砂壁状セメント系吹付(ひる石系) 22% 合成樹脂被覆合板(並・4%) 18% 樹脂入りモルタル吹付 8% ラワン合板 2% モルタル(金ごて仕上) 2% 岩綿板 1% その他(仕上げなし) 4%	木製・ふすま(中) アルミ・サッシュ(スライド式・70%) 木製・フラッシュ戸(しな合板) アルミ・サッシュ(固定式・70%) 熱線吸収ガラス(普通板・5~6%) 普通板ガラス(透明・5%)	

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
滋賀県 (大津市)	小口二丁掛タイル(窯 100%)	合成樹脂壁紙(並・ 柄物) 89% 砂壁状合成樹脂吹付 (ビニル系) 5% ラワン合板 4% 角タイル(100%角・ 白色) 2%	その他(仕上げなし) 4% 合成樹脂型(合成樹 脂表) 82% フローリング(なら) 26% 油性ペイント 21% ラワン合板 9% 軟質クッションフロ ア(中) 5% クリンカータイル(180% 角) 1% その他(ニードルパ ンチカーペット) 6%	合成樹脂紙貼(紙装) 85% 軟質繊維板(塗装吸 音板) 80% 合成樹脂系エマルジ ョンペイント 26% ラワン合板 8% 石綿セメント板(フ レキシブルボード) 1%	シート防水(非遊歩 用・塩化ビニル系) 100%	木製・ふすま(並) 木製・板戸(ラワン 合板) アルミ・サッシュ(ス ライド式・60%) 鋼製・フラッシュ戸 (85%) 普通板ガラス(透明 ・8%) 網入板ガラス(型板 ・磨き板)
京都府 (京都市)	小口二丁掛タイル(色 物) 92% 砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系) 7% 樹脂入りモルタル吹 付 1%	合成樹脂壁紙(並・ 無地) 77% ラワン合板 19% 樹脂入りモルタル吹 付 4% モルタル(金こて磨 き) 2% 角タイル(100%角・ 色物) 2%	モルタル(金こて仕 上) 84% じゅうたん(毳毛) 26% 合成樹脂型(合成樹 脂床) 16% 軟質クッションフロ ア(中) 7% ラワン合板 6%	合成樹脂紙貼(紙装) 49% 石膏ボード(着色板) 20% 砂壁状合成樹脂吹付 (ビニル系) 12% 樹脂入りモルタル吹 付 8% ラワン合板 7%	アスファルト防水(豆 砂利押し・粒の揃っ ているもの) 76% モルタル防水(エマ ルジョン系) 24%	木製・フラッシュ戸 (しな合板) 木製・ふすま(並) 鋼製・フラッシュ戸 (85%) アルミ・サッシュ(ス ライド式・70%) 網入板ガラス(磨き 板)
6・24 (65.8)						
6・27 (60.2)						

都道府県 (調査対象 都市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
大阪府 (大阪市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
7・41 (67.1)	コンクリート打放(並) 94% モルタル(金ごて磨 き) 3% その他(防水モルタ ル・金ごて仕上げ) <加算> 陶磁器質状吹付(磁 器質系) 砂壁状セメント系吹 付(化粧用セメント)	小口二丁掛タイル(色 物) 1% 石綿セメント(フレ キシブル板) 1% 合成樹脂壁紙(並・ 柄物) 78% ラワン合板 18% 石綿セメント(フレ キシブル板) 3% 角タイル(100%角・ 色物) 1% モルタル(金ごて磨 き) 1% モルタル(木ごて磨 き) 1% コンクリート打放(並) 1% その他 2% <加算> 陶磁器質状吹付(磁 器質系)	合成樹脂塗床(ポリ ウレタン) 6% 塩化ビニルタイル(半 硬質タイル) 2% <加算> 合成樹脂板(発泡合 成樹脂) アスファルト防水(露出 防水) じゅうたん(短毛) 48% 合成樹脂塗床(ポリ ウレタン) 20% 合成樹脂畳 12% 軟質クッションフロ ア(中) 11% モルタル(金ごて仕 上) 8% ラワン合板 2% 角タイル(100%角・ 色物) 1% その他(防水モルタ ル・金ごて仕上) 8% <加算> 断熱吸音材	岩綿板 2% 繊維吹付(岩綿) 2% <加算> 合成樹脂板(発泡合 成樹脂) 合成樹脂紙貼(紙葺) 51% コンクリート打放(並) 32% 石膏ボード(吸音板) 10% 石綿セメント板(フレキ ブルボード・普通板) 4% ラワン合板 2% 岩綿板 1% <加算> 砂壁状セメント吹付 (化粧用セメント) 断熱吸音材	アスファルト防水(露 出防水) 88% モルタル防水(ケイ 酸ソーダ系) 12%	アルミ・サッシュ(ス ライド式・70%) 木製・ふすま(並) 木製・フラッシュ戸 (しな合板) 木製;障子(腰付類 なし) その他(木製・クロ セットドア) 網入板ガラス(型板) 磨き板ガラス(5%)

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
兵庫県 (神戸市) 5・30 (68.0)	陶磁器質吹付(磁器質系) 80% 砂壁状合成樹脂吹付(アクリル系) 20%	合成樹脂壁紙(並上・無地) 68% ラワン合板 19% 合成樹脂被覆合板(並・5%) 8% 砂壁状セメント系吹付(厚付型セメント) 7% その他(化粧石綿板) 3% 〈加算〉 合成樹脂系エマルジョンペイント	畳(中) 35% ラワン合板 18% 硬質クッションフロア(中) 16% じゅうたん(混毛) 8% 合成樹脂塗床(エポキシ) 2% モルタル(金ごて仕上) 1% その他(防水モルタル) 20% 〈加算〉 木毛セメント板	合成樹脂紙貼(紙葺) 72% 石膏ボード(普通板) 17% ラワン合板 9% 石綿セメント板(フレキシブルボード) 6% 2% 〈加算〉 スタイロホーム	シート防水(非遊歩用・塩化ビニル系) 7% 塗膜防水(保護層なし・エポキシ系) 2% その他(アスファルトシングル葺) 91%	木製・ふすま(並) アルミ・サッシュ(スライド式・70%) 鋼製・フラッシュ戸(85%) 木製・障子(腰付額入ガラス共) 普通板ガラス(透明・8%) 網入板ガラス(型板)
奈良県 (奈良市) 4・31 (56.3)	陶磁器質吹付(セメント系) 100%	合成樹脂壁紙(並・柄物) 70% モルタル(金ごて磨き) 15% ラワン合板 7% コンクリート打放(並) 4% その他(仕上げなし) 4% 〈加算〉 合成樹脂系ペイント	合成樹脂畳(合成樹脂床) 35% モザイクパーケット 85% 合成樹脂塗床(塩化ビニル) 18% ラワン合板 7% コンクリート直仕上(金ごて仕上) 4% 角タイル(100%角・	石膏ボード(吸音板) 50% プリント合板 85% ラワン合板 7% 木毛セメント板(コンクリート打込) 4% その他(仕上げなし) 4%	アスファルト防水(露出防水) 100%	木製・ふすま(並) 木製・フラッシュ戸(しな合板) 木製・障子(腰付額なし) アルミ・サッシュ(スライド式・60%) 普通板ガラス(透明・8%) 型板ガラス(4%)

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
和歌山市 (和歌山市)	樹脂入りモルタル吹付 100%	合成樹脂壁紙(並・無地) 72% 砂壁状セメント系吹付(厚付型セメント) 15% ラワン合板 8% 角タイル(100%角・色物) 5%	色物) 2% その他(仕上げなし) 4% 畳(中) 54% モルタル(金ごて仕上) 15% 軟質クッションフロア(中) 10% モザイクパーケット 8% ラワン合板 8% モザイクタイル(角型・色物) 5%	木材(杉・ラワン) 54% 石膏ボード(着色板) 25% 砂壁状セメント吹付(厚付型セメント) 10% ラワン合板 8% 合成樹脂板(塩化ビニル・0.8%) 8%	アスファルト防水(露出防水) 100%	アルミ・サッシュ(スライド式・70%) 木製・フラッシュ戸(しな合板) 木製・ふすま(並) 鋼製・フラッシュ戸(85%) 磨き板ガラス(5%) 網入板ガラス(型板)
鳥取県 (鳥取市)	コンクリート打放(並) 100% 〈加算〉 砂壁状セメント系吹付(ひる石系)	石膏ボード 58% ラワン合板 28% 合成樹脂被覆合板 7% その他 12% 〈加算〉 合成樹脂系エマルジョンペイント 合成樹脂系ペイント(並)	畳(中) 89% モルタル防水(エマルジョン系) 80% フローリング(なら) 29% 塩化ビニルタイル(半硬質タイル・2%) 2% 〈加算〉 断熱材	コンクリート打放(並) 50% 石膏ボード 49% ラワン合板 1% 〈加算〉 合成樹脂系エマルジョンペイント アクリルリジン仕上	アスファルト防水(モルタル・12層) 96% 塗膜防水(保護層あり・エマルジョン系) 8% モルタル防水(エマルジョン系) 1%	(項目の記載なし)
5・53 (61.1)						
5・30 (60.6)						

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
島根県 (松江市) 4・24 (81.1.)	砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系) 86% モルタル(金ごて仕 上) 14%	合成樹脂壁紙(並・ 柄物,無軸) 71% ラワン合板 16% 砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系) 18% 〈加算〉 断熱材	モザイクパーケット 41% 畳(上) 40% ラワン合板 9% モルタル(金ごて仕 上) 6% 軟質クッションフロ ア(中) 4%	合成樹脂系エマールジ ョンペイント 62% ラワン合板 9% 砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系) 7% 合成樹脂紙貼(紙張) 1% その他(化粧石膏ボ ード) 21% 〈加算〉 断熱材	モルタル防水(エマ ルジョン系) 100%	木製・ふすま(並) アルミ・サッシュ(ス ライド式・60%) 木製・フラッシュ戸 (しな合板) アコーディオンドア 普通板ガラス(透明 ・8%) 型板ガラス(4%)
岡山県 (岡山市) 6・42 (71.1)	砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系) 57% 小口二丁掛タイル(色 物) 1% その他(吹付タイル) 物) 42%	合成樹脂壁紙(並・ 柄物) 91% ラワン合板 8% 小口二丁掛タイル(色 物) 1%	じゅうたん(混毛) 50% 畳(中) 30% 軟質クッションフロ ア(中) 15% ラワン合板 8% フローリング(なら) 1% 角タイル(100%角・ 色物) 1%	合成樹脂紙貼(紙張) 64% 木材(杉) 31% ラワン合板 8% 石綿セメント板(フ レキシブルボード・ 普通板) 1% その他 1% 〈加算〉 砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系)	アスファルト防水(露 出防水) 100%	木製・フラッシュ戸 (しな合板) 木製・ふすま(並) アルミ・サッシュ(ス ライド式・60%) 鋼製・フラッシュ戸 (85%) 網入板ガラス(型板) 型板ガラス(4%)

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
広島県 (広島市)	陶磁器質吹付(セメント系) 79% 砂壁状合成樹脂吹付(アクリル系) 21%	合成樹脂壁紙(並無地) 80% ラワン合板 10% 角タイル(100%角・色物) 6% 陶磁器質吹付(エポキシ樹脂系) 3% 繊維壁(並) 1%	リノリウム 34% 合成樹脂盤(合成樹脂床) 28% モルタル防水(エマルジョン系) 21% モルタル(金ごて仕上) 4% ラワン合板 4% クリンカータイル(180%角) 8% じゅうたん(混毛) 2% 縁甲板(桧) 2% その他(仕上なし) 1%	合成樹脂紙貼(紙葺) 65% 砂壁状セメント系吹付(ひる石系) 21% ラワン合板 4% 半硬質繊維板(普通板) 8% 石膏ボード(吸音板) 1% 岩綿板 1% その他(仕上げなし) 5%	アスファルト防水(露出防水) 81% シート防水(非遊歩用・塩化ビニル系) 10% 着色石綿セメント板 9%	木製・ふすま(並) 木製・障子(猫間ガラス共) 木製・板戸(ラワン合板) 鋼製・フラッシュ戸(85%) 普通板ガラス(透明) 網入板ガラス(型板)
山口県 (山口市)	モルタル(はけ引き) 97% モルタル(木ごて磨き) 3% <加算> 合成樹脂系ペイント(並) 砂壁状合成樹脂吹付(アクリル系)	合成樹脂被覆合板(並) 68% ラワン合板 15% モルタル(金ごて磨き) 14% 角タイル(100%角・色物) 8% <加算> 合成樹脂系ペイント	合成樹脂盤(合成樹脂床) 40% モザイクパケケット 24% モルタル(金ごて仕上) 17% ラワン合板 6% 軟質クッションフロア(中) 6% 合成樹脂板(メラミ	合成樹脂紙貼(紙葺) 50% モルタル(はけ引き) 30% ラワン合板 8% 合成樹脂被覆合板(並) 7% 合成樹脂板(塩化ビニル・0.8%) 5% <加算>	アスファルト防水(露出防水) 100%	木製・ふすま(並) アルミ・サッシュ(スライド式・60%) 木製・フラッシュ戸(しな合板) 鋼製・アングル戸(85%) 普通板ガラス(透明・8%) 型板ガラス(4%)

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
徳島県 (徳島市) 4・32 (65.1)	陶磁器質状吹付(セメント系) 76% 小口二丁掛タイル(色物) 18% コンクリート打放(中) 5% 瓦(洋風瓦,塩焼瓦) 1%	合成樹脂壁紙(並柄物) 68% ラワン合板 15% 角タイル(100%角・色物,白色) 10% 陶磁器質状吹付(エポキシ樹脂系) 7%	軟質クッションフロア(上) 45% 畳(上) 31% 縁甲板(ラワン) 7% モルタル(金ごて仕上) 6% ラワン合板 6% モザイクタイル(角型・色物) 4% 小口二丁掛タイル(色物) 1%	砂壁状セメント系吹付(ひる石系) 4% 砂壁状合成樹脂吹付(アクリル系) 8%	瓦(洋風瓦,塩焼瓦) 100%	木製・板戸(ラワン合板) アルミ・サッシュ(二り出し・70%) 木製・ふすま(並) 木製・フラッシュ戸(しな合板) 網入板ガラス(型板,磨き板) 型板ガラス
香川県 (高松市) 3・23 (60.7)	コンクリート打放(並) 91% 小口二丁掛タイル(色物) 9% <加算> 陶磁器質状吹付(磁器質系) 砂壁状合成樹脂吹付	合成樹脂壁紙(並・無地) 88% ラワン合板 8% モルタル(はけ引き) 4% 角タイル(100%角・白色) 4% <加算>	合成樹脂畳(合成樹脂床) 26% モルタル(金ごて仕上) 26% 塩化ビニルタイル(軟質タイル) 24% 軟質クッションフロア(中) 13%	合成樹脂紙貼(紙葺) 37% 石膏ボード(吸音板) 28% コンクリート打放(並) 22% レキシブルボード	シート防水(非遊歩用・合成ゴム系) 98% モルタル防水(ケイ酸ソーダ系) 2% <加算> 特殊ペイント(防水塗料)	木製・ふすま(中) 木製・障子(腰付額なし) アルミ・サッシュ(スライド式・60%) 木製・フラッシュ戸(合成樹脂被覆合板・並)

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
愛媛県 (松山市) 4・20 (60.0)	(アクリル系) 陶磁器質状吹付(エ ポキシ樹脂系) 100%	砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系)	ラワン合板 7% 塩化ビニルタイル(硬 質タイル) 2% 角タイル(100%角・ 色物) 1% 小口二丁掛タイル(色 物) 1%	普通板) 3% アルミニウム板(成 型板・中) 1% 石膏ボード(普通板) 1% <加算> セメント吹付 砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系)	シート防水(非遊歩 用・合成ゴム系) 100%	型板ガラス(4%) 普通板ガラス(透明 ・3%) 木製・ふすま(並) 木製・フラッシュ戸 (しな合板) アルミ・サッシュ(ス ライド式・60%) 鋼製・フラッシュ戸 (85%) 網入板ガラス(型板 ・磨き板) 型板ガラス(4%)
高知県 (高知市)	コンクリート打放(並) 100% <加算>	合成樹脂壁紙(並・ 無地) 69% ラワン合板 17%	フロアリング(アビ トン) 44% 畳(中) 84%	コンクリート打放(並) 86% ラワン合板 10% 陶磁器質状吹付(エ ポキシ樹脂系)	アスファルト防水(豆 砂利押・粒が揃って いるもの) 100%	木製・ふすま(並) アルミ・サッシュ(ス ライド式・60%)

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
4・32 (88.6)	砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系)	コンクリート打放(並) 8% 石綿セメント板(フ レキシブル板) 6% 〈加算〉 合成樹脂系ペイント	ラワン合板 10% モルタル(金ごて仕 上) 9% クリンカータイル (180%角) 2% 塩化ビニルタイル(軟 質タイル) 1%	石膏ボード(普通板) 〈加算〉 合成樹脂系エマルジ ョンペイント 砂壁状セメント系吹 付(ひる石系)		木製・フラッシュ戸 (合成樹脂被覆合板 ・並) 鋼製・フラッシュ戸 (85%) 普通板ガラス(透明 ・8%) 型板ガラス(4%)
福岡県 (福岡市)	陶磁器質吹付(磁 器質系) 62% 砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系) 38%	合成樹脂壁紙(並・ 柄物) 80% ラワン合板 16% 角タイル(100%角・ 色物) 4%	畳(中) 33% 軟質クッションフロ ア(中) 26% じゅうたん(混毛) 17% ラワン合板 14% モルタル(金ごて仕 上) 10%	合成樹脂紙貼(紙葺) 40% プリント合板 37% 合成樹脂系エマルジ ョンペイント 11% 石膏ボード(着色板) 7% ラワン合板 5%	アスファルト防水(モ ルタル・8層) 100%	木製・ふすま(並) アルミ・サッシュ(ス ライド式・70%) 木製・フラッシュ戸 (しな合板) 木製・障子(腰付額 なし) 網入板ガラス(型板 ・磨き板) 型板ガラス(2%)
佐賀県 (佐賀市)	小口二丁掛タイル(色 物) 73% モルタル(金ごて仕 上) 5% その他(吹付タイル)	合成樹脂壁紙(並・ 柄物) 81% ラワン合板 11% 角タイル(100%角・ 色物) 4%	じゅうたん(混毛) 84% 畳(中) 28% 軟質クッションフロ ア(中) 21%	合成樹脂紙貼(紙葺) 60% ラワン合板 6% 砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系) 4%	アスファルト防水(モ ルタル・6層) 100%	アルミ・サッシュ(ス ライド式・70%) 木製・ふすま(中・ 並) 木製・フラッシュ戸
5・30 (75.1)						

都道府県 (調査対象 市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
長崎県 (長崎市)	22%	小口二丁掛タイル(色 8%) その他(吹付タイル) 1%	ラワン合板 5% アスフェルトタイル (暗色) 5% 着色コンクリート床 4% 塩化ビニルタイル(半 硬質タイル) 2% モザイクタイル(角 型・色物) 2% 緑甲板(ラワン) 2%	アルミニウム板(成 型板・並) 1% 石綿セメント板(フ レキシブルボード・ 吸音板) 1% 木毛セメント板 1% その他(化粧石膏ボ ード) 27%		鋼製・フラッシュ戸 (85%) 網入板ガラス(型板・ 磨き板) 型板ガラス(4.6%)
4・20 (62.1)	モルタル(はけ引き) 100% 〈加算〉 砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系)	合成樹脂壁紙(並・ 無地) 78% 角タイル(100%角・ 色物) 15% ラワン合板 7%	畳(中) 35% 軟質クッションフロ ア(上) 29% 単板張合板 24% ラワン合板 7% モザイクタイル(角 型・色物) 8% 角タイル(100%角・ 色物) 2%	プリント合板 35% 合成樹脂紙貼(紙葺) 25% 石膏ボード(普通板) 24% ラワン合板 7% 石膏ボード(吸音板) 6% 合成樹脂板(塩化ビ ニル・0.8%) 8% 〈加算〉 油性ペイント	シート防水(遊歩用 ・ポリイソプチレン 系) 100%	木製・ふすま(並) 木製・フラッシュ戸 (しな合板) アルミ・サッシュ(ス ライド式・70%) 鋼製・フラッシュ戸 (85%) 型板ガラス(4%) 網入板ガラス(磨き 板)

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
熊本県 (熊本市) 3・59 (23.2)	陶磁器質吹付(セメント系) 67% 砂壁状合成樹脂吹付(アクリル系) 33%	合成樹脂壁紙(並・無地) 76% ラワン合板 10% 角タイル(100%角・色物) 2% その他(仕上げなし) 12%	じゅうたん(混毛) 27% コンクリート直仕上(金ごて仕上) 27% 合成樹脂畳(合成樹脂床) 16% リノリウム 15% モルタル(金ごて仕上) 5% ラワン合板 4% その他(仕上げなし) 6%	合成樹脂紙貼(紙裏) 31% ラワン合板 4% その他(仕上げなし) 38% その他(化粧石膏ボード) 27%	シート防水(非遊歩用・塩化ビニル系) 51% シート防水(遊歩用・塩化ビニル系) 49%	木製・フラッシュ戸(しな合板) アルミ・サッシュ(スライド式・60%) 鋼製・アングル戸(85%) 鋼製・フラッシュ戸(85%) 普通板ガラス(透明・8%) 型板ガラス(4%)
大分県 (大分市) 5・28 (34.6)	砂壁状合成樹脂吹付(アクリル系) 80% 陶磁器質吹付(エポキシ樹脂系) 10% 小口二丁掛タイル(白色) 10%	合成樹脂壁紙(並・柄物・無地) 67% ラワン合板 11% 小口二丁掛タイル(色物) 10% モルタル(はげ引き) 6% 角タイル(100%角・色物) 8% モルタル(金ごて磨き) 3% (加算)	合成樹脂畳(合成樹脂床) 48% 軟質クッションフロア(中) 16% モルタル(金ごて仕上) 15% 単板畳合板 18% ラワン合板 5% モザイクタイル(角型・色物) 8% モザイクタイル(丸型・色物) 8%	砂壁状セメント系吹付(ひる石系) 56% 砂壁状合成樹脂吹付(アクリル系) 16% 石膏ボード(吸音板) 5% 合成樹脂紙貼(紙裏) 5% ラワン合板 5% 合成樹脂板(塩化ビニル・0.8%) 4%	シート防水(非遊歩用・合成ゴム系) 100%	アルミ・サッシュ(スライド式・60%) 木製・ふすま(並) アルミ・網戸(合成樹脂網) 木製・フラッシュ戸(しな合板) 型板ガラス(4%) 網入板ガラス(型板、磨き板)

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
宮崎県 (宮崎市)	砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系) 100%	砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系) 合成樹脂系エマルジ ョンペイント 合成樹脂壁紙(並・ 無地) 35% 石綿セメント板(平 板) 30% ラワン合板 20% 砂壁状合成樹脂吹付 (ビニル系) 10% 角タイル(100%角・ 色物) 5%	畳(中) 50% 単板張合板 22% ラワン合板 8% モザイクタイル(角 型・色物) 7% 軟質クッションフロ ア(中) 7% モルタル(金ごて仕 上) 6%	竿縁天井(一重廻り 縁・並) 50% 石膏ボード(吸音板) 30% ラワン合板 7% 合成樹脂板(塩化ビ ニル・0.8%) 7% 砂壁状セメント系吹 付(ひる石系) 6%	アスファルト防水(露 出防水) 100%	木製・フラッシュ戸 (しな合板) 木製・ふすま(並) アルミ・サッシュ(ス ライド式・60%) 鋼製・フラッシュ戸 (85%) 型板ガラス(4%)
鹿児島県 (鹿児島市)	モルタル(はげ引き) 100% <加算> 砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系)	合成樹脂被覆合板 (並) 57% モルタル(金ごて磨 き) 29% ラワン合板 14% <加算> 合成樹脂系エマルジ ョンペイント	畳(中) 64% 単板張合板 17% ラワン合板 8% モザイクタイル(丸 型・色物) 6% モルタル防水(エマ ルジョン系) 4% 合成樹脂塗床(ポリ ウレタン) 1%	砂壁状セメント系吹 付(ひる石系) 68% プリント合板 15% ラワン合板 8% 石綿セメント板(フ レキシブルボード・ 普通板) 8% 合成樹脂系エマルジ ョンペイント 8% 木毛セメント板(コ コ)	モルタル防水(エマ ルジョン系) 100%	木製・ふすま(並) アルミ・サッシュ(ス ライド式・70%) アルミ・網戸(合成 樹脂網) 木製・フラッシュ戸 (合成樹脂被覆合板 ・並) 普通板ガラス(透明 ・8%)

都道府県 (調査対象市)	外部仕上げ	内部仕上げ	床仕上げ	天井仕上げ	屋根仕上げ	建具
沖縄県 (那覇市)	コンクリート打放(並) 100 % 〈加算〉 砂壁状合成樹脂吹付 (アクリル系)	合成樹脂壁紙(並・ 無地) 68 % プリント合板 11 % モルタル(はげ引き) 11 % ラワン合板 9 % 角タイル(100 %角・ 色物) 6 % 〈加算〉 断熱吸音材	合成樹脂被覆合板 71 % 畳(中) 15 % モザイクタイル(角 型・色物) 10 % ラワン合板 4 %	コンクリート打込) 1 % その他(仕上げなし) 7 % 砂壁状セメント系吹 付(ひる石系) 61 % プリント合板 15 % 軟質繊維板(吸音板) 11 % 合成樹脂板(塩化ビ ニル・0.8 %) 6 % ラワン合板 4 %	モルタル防水(エマ ルジョン系) 100 %	普通板ガラス(つや 消し・8 %) 木製・ふすま(並) アルミ・サッシュ(ス ライド式・100 %) 木製・フラッシュ戸 (しな合板) 木製・障子(腰付額 なし) 網入板ガラス(型板 、磨き板)
4・19 (61.6)						

IV 参考資料

1. 主要建築資材の卸売物価指数

(昭和55年平均=100)

品目	昭和54年 1月(A)	昭和54年 1月(B)	昭和54年 1月(C)	昭和54年 1月(D)	(B)/(A)	(C)/(A)	(D)/(A)	昭和55年 1月(A)	昭和55年 1月(B)	昭和55年 1月(C)	昭和55年 1月(D)	(B)/(A)	(C)/(A)	(D)/(A)
丸太	1015	855	885	766	0.84	0.82	0.75							
じゅうたん	917	998	985	986	1.08	1.08	1.08							
タフタットカーペット	926	967	903	881	1.04	0.98	0.90							
角材	1095	887	828	733	0.76	0.76	0.67							
ひき割材	1088	882	821	785	0.77	0.76	0.68							
板	971	918	881	792	0.94	0.91	0.82							
普通合板	1069	869	812	770	0.81	0.76	0.72							
特殊合板	961	887	921	892	0.98	0.97	0.94							
フローリングボード	989	886	894	854	0.90	0.90	0.86							
合板フローター	960	886	899	902	0.92	0.94	0.94							
パーティクルボード	877	887	899	873	1.01	1.08	1.00							
ファイバーボード	968	986	992	979	1.05	1.06	1.05							
木製ドア	954	932	873	890	0.98	0.92	0.98							
ガラス戸	980	1086	949	1052	1.11	1.02	1.18							
障子	960	925	866	822	0.96	0.92	0.86							
子戸	969	991	1085	1074	1.02	1.07	1.11							
アスファルト舗工紙	928	903	998	969	0.98	1.08	1.05							
鋳造形鋼	962	924	872	948	0.96	0.91	0.99							
鋼	1087	774	824	812	0.75	0.78	0.78							
亜鉛鉄板	925	1019	1050	1044	1.10	1.14	1.18							
亜鉛鉄板処理鋼板	988	1022	1072	1074	1.09	1.14	1.14							
ステンレス鋼板	907	969	956	944	1.07	1.05	1.04							
鋼	1089	787	774	804	0.76	0.74	0.77							
アルミニウム板	867	946	953	1012	1.10	1.11	1.18							
アルミニウム合金板	896	914	988	1048	1.02	1.04	1.16							
アルミニウムチャンネル	908	976	972	1079	1.07	1.07	1.19							
アルミニウムチャンネル	960	1042	1064	1108	1.09	1.11	1.17							
アルミニウムパイプ	944	988	992	1108	1.06	1.05	1.17							
ステンレスパイプ	961	1041	1055	1109	1.08	1.10	1.16							
チャンネル	968	1094	1120	1104	1.15	1.18	1.16							
器具用取付具	960	1006	1006	1020	1.06	1.06	1.06							

「昭和59年連続物価指数」(日本銀行関)

2. 都道府県別鉄筋コンクリート造居住専用建物の工事予定単価（昭和57年～59年）

（工事費予定額単位：円、指数：東京都 100）

都道府県名	昭和 57 年		昭和 58 年		昭和 59 年	
	1㎡当り 予 定 額	指 数	1㎡当り 予 定 額	指 数	1㎡当り 予 定 額	指 数
北海道	123,758	78.8	118,202	74.7	116,747	72.9
青森	126,671	80.2	136,889	86.5	218,358	136.8
岩手	126,096	79.8	122,290	77.8	127,172	79.4
宮城	136,686	86.5	129,422	81.8	129,258	80.7
秋田	131,154	88.0	129,562	81.9	121,565	75.9
山形	112,954	71.5	123,249	77.9	123,184	76.9
福島	114,950	72.7	116,981	78.9	124,207	77.5
茨城	134,088	84.8	133,748	84.5	134,051	83.7
栃木	127,679	80.9	140,922	89.1	123,306	80.4
群馬	118,412	74.9	121,686	76.9	124,697	77.8
埼玉	130,813	82.8	130,987	82.8	133,346	83.2
千葉	133,064	84.2	132,959	84.0	131,067	81.8
東京都	153,041	100.0	153,248	100.0	160,197	100.0
神奈川県	149,908	94.9	147,280	98.1	145,176	90.6
新潟	135,702	86.9	133,399	87.5	133,764	86.6
富山	133,371	88.2	131,758	83.8	124,317	77.6
石川	132,521	83.9	131,794	83.3	133,578	83.4
福井	130,317	82.5	125,494	79.8	126,229	78.8
山梨	117,778	74.5	120,630	76.2	123,043	79.9
長野	136,011	86.1	133,586	87.6	133,324	83.2
岐阜	121,327	77.1	115,746	78.1	120,958	75.5
静岡	125,647	79.5	125,634	79.4	127,557	79.6
愛知	123,439	78.1	120,881	76.4	118,558	74.0
三重	124,675	78.9	127,057	80.4	124,440	77.7
滋賀	143,976	91.1	123,641	78.1	131,365	82.0
京都	133,742	84.6	126,471	79.9	132,132	82.5
大阪	123,620	82.0	129,409	81.8	131,432	82.1
兵庫	131,311	83.4	131,776	83.3	123,429	80.2
奈良	131,379	83.1	129,341	82.0	130,215	81.2
和歌山	125,475	79.4	127,337	80.5	125,313	78.2
鳥取	116,674	73.8	125,974	79.6	125,322	78.5
島根	123,265	78.0	113,966	75.2	122,654	76.6
岡山	125,212	79.2	124,088	78.4	125,724	78.5
広島	124,927	79.0	123,043	79.6	125,743	78.5
山口	120,373	76.2	113,939	75.2	122,459	76.4
徳島	117,195	74.2	113,773	71.9	115,979	72.4
香川	113,737	75.2	120,954	76.4	126,176	78.8
愛媛	113,734	75.1	115,405	72.9	110,393	69.2
高知	127,945	81.0	129,432	81.3	122,323	76.4
福岡	112,547	71.2	111,293	70.3	114,012	71.2
佐賀	113,446	71.3	110,062	69.6	115,159	71.9
長崎	115,242	72.9	116,014	73.3	115,306	72.6
熊本	110,751	70.1	112,319	71.0	106,416	66.4
大分	105,266	66.6	103,217	67.1	107,469	67.1
宮崎	107,130	67.8	104,300	66.2	106,277	66.3
鹿児島	117,203	74.2	114,342	72.6	110,671	69.1
沖縄	131,343	83.4	134,337	85.2	132,336	82.6
(平均)	125,332	79.6	125,337	79.2	127,191	79.4

（建設省「建築統計年報」より）



